

北陸地方建設事業推進協議会

平成22年度

「建設技術報告会」

実施報告書

平成22年11月

北陸地方建設事業推進協議会  
「建設技術報告会」実行委員会

# 目次

1. 開催概要	
1) 目的	1
2) 開催日時	1
3) 開催場所	1
4) 構成と報告時間	3
5) 報告技術のテーマ	3
6) 主催構成機関及び実行委員会構成員	4
7) 聴講者数及び聴講者数の推移	5
2. 実施内容	
1) 開会式	7
2) 基調講演	7
3) 技術報告	7
4) 閉会式	8
5) 報告技術一覧	8
6) パネル展示コーナー	10
7) NETIS等登録技術コーナー	12
8) CPD/CPDS認証プログラム	14
3. 準備及び運営・設営	
1) スケジュール	15
2) 主な経緯	15
3) 運営体制	16
4) 会場設営	17
4. 広報	
1) 広報活動	24
2) 広報等掲載一覧	24
3) 広報等掲載状況	25
5. アンケート	
1) 設問内容	30
2) 配布・回収	30
3) アンケート結果概要	31
4) 設問別集計結果	33

# 1. 開催概要

## 1) 目的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催されました。

本報告会は、平成7年度から開催され、今回で15回目の開催となりました。

## 2) 開催日時

■平成22年 9月30日(木) 9時00分～16時30分

●受付

9時00分～16時30分 3階ロビー(ホワイエ)

●開会式

9時30分～9時40分 3階 第1会場(メインホール)

開会挨拶 北陸地方整備局 企画部長 小池 幸男

●基調講演

9時40分～10時25分 3階 第1会場(メインホール)

演題 「日本の治水に貢献した蘭人工師」

ーローウェンホルスト・ムルデルー

ーヨハネス・デ・レイケー

講演者 富山県郷土史会長 前田 英雄 氏

●技術報告(分科会方式)

10時35分～16時10分

第1会場 3階 メインホール

第2会場 2階 多目的会議室201～203

●閉会式

16時20分～16時30分 3階 第1会場(メインホール)

総評、閉会挨拶 平成22年度「建設技術報告会」実行委員長 矢田 弘

(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)

閉会式終了後の16時30分から3階ロビー(ホワイエ)で「CPD/CPDS」の受講証明書の発行を行いました

## 3) 開催場所

■会場施設

富山国際会議場(大手町フォーラム)

住所: 〒930-0084 富山県富山市大手町1番2号

TEL: 076-424-5931

URL: <http://www.ticc.co.jp/>

施設駐車場: 富山国際会議場地下駐車場/125台



●交通アクセス

- JR富山駅より 徒歩で約15分  
バスで約5分→「城址公園前」下車 徒歩3分  
市内電車(セントラム)で約5分→「国際会議場前」電停下車 徒歩0分
- 富山空港より タクシーで約20分  
空港連絡バスで約25分→「総曲輪」バス停下車 徒歩2分
- 北陸自動車道 「富山I.C」から約15分

■使用会場

- メインホール[3階] —— 第1会場：開会式・基調講演・技術報告・閉会式  
聴講席：3階418席（4階394席）
- ホワイエ [3階] —— パネル展示コーナー／NETIS等登録技術コーナー
- 控室1 [3階] —— 講師・来賓控室
- 控室2・3 [3階] —— 事務局控室（運営スタッフ）
- 多目的会議室[2階] —— 第2会場：技術報告  
聴講席：232席（スクール72席、シアター160席）

注) 聴講者数が500名を超過したため、「開会式」及び「基調講演」時にはメインホールの4階部分を一部開放し対応した。

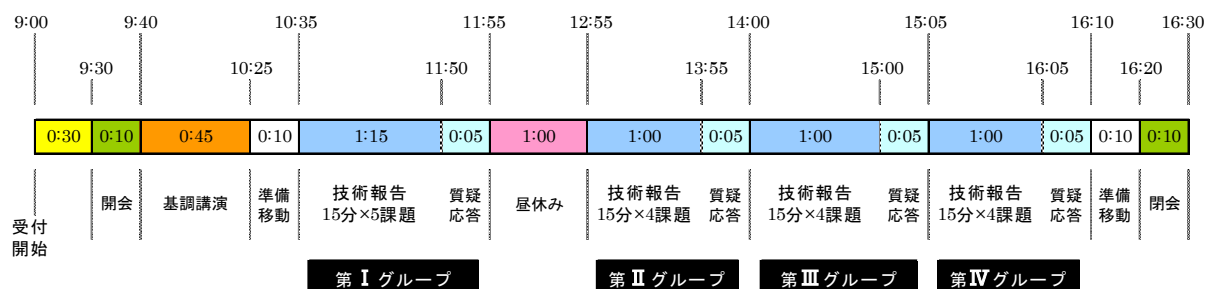
## 4) 構成と報告時間

基調講演と技術報告の2部構成とし、技術報告は2会場の分科会方式とした。

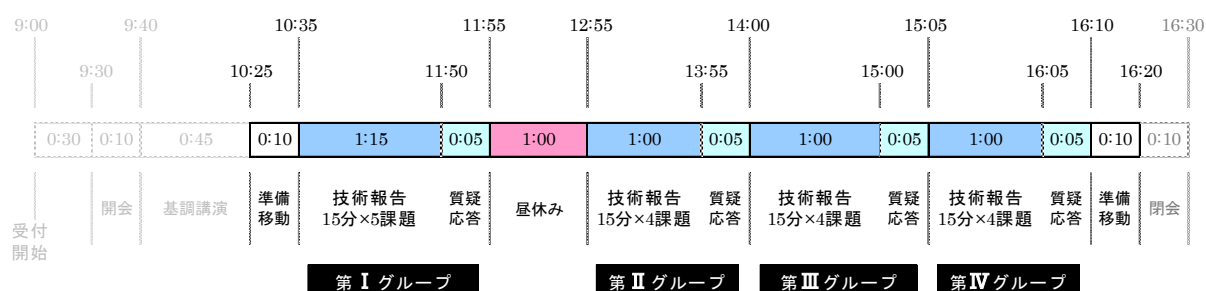
報告時間は「発表者入替」「プレゼンター立ち上げ」を含めて1技術15分とし、各グループの報告終了毎に5分間の質疑・応答時間を設けた。

技術報告：34技術（1技術×15分）、質疑・応答：5分、基調講演：45分、昼休み：60分、休憩：なし

### ■第1会場：メインホール（3F）



### ■第2会場：多目的会議室 201～203（2F）



## 5) 報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題のテーマ（5テーマ）に「その他」を含めた6テーマの分類により、合計34技術の技術報告を行った。

### ①雪に強い地域づくり

（克雪対策、冬期道路交通の安全確保・安全性に関する新技術等）

### ②良いものを安く

（コスト縮減、省力化に関する新技術等）

### ③自然災害からの安全確保

（危機管理、土石流などの防災に関する新技術等）

### ④環境の保全と創造

（建設副産物、リサイクルに関する新技術等）

### ⑤ゆとりと福祉

（情報化に関する新技術等）

### ⑥その他

（上記のテーマ①～⑤に属さない新技術等）

【テーマ別報告技術数】

テーマ	報告技術
①雪に強い地域づくり	1
②良いものを安く	14
③自然災害からの安全確保	6
④環境の保全と創造	6
⑤ゆとりと福祉	1
⑥その他	6
合計	34

## 6) 主催構成機関及び実行委員会構成員

### ■主催構成機関

主催は、『北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会』である。

以下に実行委員会の構成機関（23機関）を示す。

なお、今年度は(社)日本橋梁建設協会北陸事務所が新規加盟した。

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社
中日本高速道路(株)金沢支社／(社)日本土木工業協会北陸支部
(社)日本道路建設業協会北陸支部／(社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
(社)日本建設機械化協会北陸支部／(社)新潟県建設業協会／(社)富山県建設業協会
(社)石川県建設業協会／北陸土木コンクリート製品技術協会
(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸PC防雪技術協会
(社)新潟県融雪技術協会／(財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会
(社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(社)北陸建設弘済会／(社)日本橋梁建設協会北陸事務所

### ■実行委員会構成員

役員	所属	役職	備考
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	
副委員長	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	
委員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課長	
委員	北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	課長	
委員	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	会計監査員
委員	富山県 土木部 建設技術企画課	技術指導係長	
委員	石川県 土木部 監理課 技術管理室	課長補佐	
委員	新潟市 工事検査センター	次長	
委員	東日本高速道路(株)新潟支社 総合調整部 技術企画課	課長代理	
委員	中日本高速道路(株)金沢支社 コーポレート部 企画調整チーム兼総務チーム	サブリーダー	
委員	(社)日本土木工業協会 北陸支部	契約積算・技術副委員長	
委員	(社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	
委員	(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	
委員	(社)日本建設機械化協会 北陸支部	普及部会委員	
委員	(社)新潟県建設業協会	業務部長	
委員	(社)富山県建設業協会	常務理事	
委員	(社)石川県建設業協会	参与	
委員	北陸土木コンクリート製品技術協会	技術委員長	
委員	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	広報部会長	
委員	北陸PC防雪技術協会	事務局長	
委員	(社)新潟県融雪技術協会	技術委員長	
委員	(財)新潟県建設技術センター	情報管理部長	
委員	北陸地質調査業協会	事務局長	
委員	(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	技術委員長	
委員	(社)北陸建設弘済会	技術部長	
委員	(社)日本橋梁建設協会 北陸事務所	所長	

## 7) 聴講者数及び聴講者数の推移

### ■聴講者数

本年度の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

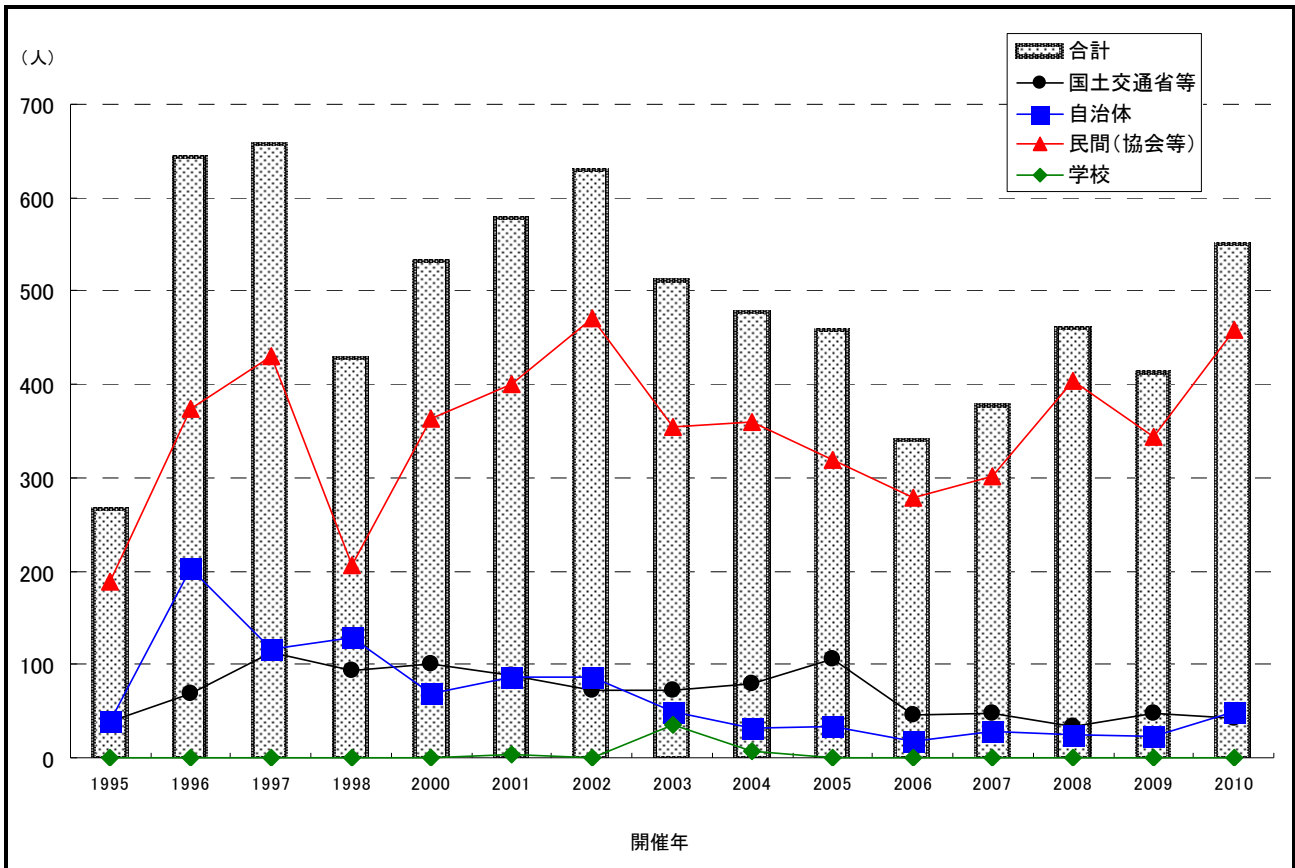
【平成22年度「建設技術報告会」 聴講者集計表】

機関・団体名		申込		実績	
国土交通省	北陸地方整備局	22	22	41	41
	他地方整備局	0		0	
その他省庁・公団	その他省庁・公団	0		0	
自治体関係	新潟県	1	1	1	1
	新潟県 市町村	0		0	
	富山県	47	53	37	41
	富山県 市町村	6		4	
	石川県	4	4	4	4
	石川県 市町村	0		0	
	長野県	1		1	
	福島県	0		0	
	山形県	0		0	
	富山市	1		1	
	小 計		82		89
民間：主催協会	東日本高速道路(株)	15		13	
	中日本高速道路(株)	3		1	
	(社)日本土木工業協会	36		30	
	(社)日本道路建設業協会	26		25	
	(社)建設コンサルタンツ協会	17		18	
	(社)日本建設機械化協会	11		13	
	(社)新潟県建設業協会	3		2	
	(社)富山県建設業協会	152		119	
	(社)石川県建設業協会	30		26	
	北陸土木コンクリート製品技術協会	4		4	
	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会	0		0	
	北陸PC防雪技術協会	0		1	
	(社)新潟県融雪技術協会	9		8	
	(財)新潟県建設技術センター	3		3	
	北陸地質調査業協会	8		8	
	(社)日本埋立浚渫協会	30		28	
	(社)北陸建設弘済会	23		20	
	(社)日本橋梁建設協会	10		6	
小 計		380		325	
民間：その他	一般（加入協会不明を含む）	100		99	
小 計		100		99	
学校		0		0	
報道		0		4	
発表者		34		34	
小 計		34		38	
(官 公 庁 合 計)		85		92	
(民 間 合 計)		511		459	
合 計		596		551	

■ 「建設技術報告会」 聴講者数の推移

【「建設技術報告会」聴講者数（第1回～第15回）】

開催年	1995	1996	1997	1998	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
内訳															
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45	47	33	47	43
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18	29	24	23	49
民間(協会等)	189	373	430	206	364	401	471	354	360	319	278	302	404	343	459
学校	0	0	0	0	0	3	0	35	7	0	0	0	0	0	0
合計	267	643	658	429	533	579	630	511	478	458	341	378	461	413	551
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	富山市	新潟市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	新潟市	新潟市	富山市



注) 1. 発表者及び報道関係者は、「民間(協会等)」に含む。  
 2. 「自治体」には、市町村関係者を含む。



第1会場



第2会場



## 2. 実施内容

### 1) 開会式

時 間：9時30分～9時40分  
会 場：第1会場〔メインホール〕  
開会挨拶：北陸地方整備局 企画部長 小池 幸男  
司 会：北陸技術事務所 副所長 柴澤 一嘉



### 2) 基調講演

時 間：9時40分～10時25分  
会 場：第1会場〔メインホール〕  
演 題：「富山県の治水に貢献したオランダ人技師」  
ーローウェンホルスト・ムルデルー  
ーヨハネス・デ・レイケー  
講 演 者：富山県郷土史会長 前田 英雄 氏  
司 会：北陸技術事務所 副所長 柴澤 一嘉



### 3) 技術報告

時 間：10時35分～16時10分  
会 場：第1会場〔メインホール〕 17技術  
第2会場〔多目的会議室〕 17技術  
司 会：第1会場 (社)日本土木工業協会 北陸支部 (鹿島建設株) 山崎 久義  
北陸地方整備局 企画部 施工企画課 課長補佐 石田 正樹  
第2会場 (社)日本道路建設業協会 北陸支部 (朝日建設株) 林 常夫  
北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 課長補佐 高橋 信幸



第1会場 報告状況



第2会場 報告状況

## 4) 閉会式

時 間：16時20分～16時30分  
 会 場：第1会場〔メインホール〕  
 閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長 矢田 弘  
 （北陸地方整備局 北陸技術事務所長）  
 司 会：北陸技術事務所 副所長 柴澤 一嘉



## 5) 報告技術一覧

技術報告は以下の34技術の発表を行った。

【報告技術一覧表（主催機関・団体別）】

（その1）

主催機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	機関・会社名・所属
国土交通省 北陸地方整備局	④	生分解素材を用いた野芝種子シートの開発	北陸技術事務所 技術課
	②	無人・有人対応型草刈機の開発	北陸技術事務所 施工調査課
富山県	⑥	富山大橋の整備について	富山土木センター 管理検査課 プロジェクト推進班
(社)日本土木工業協会 北陸支部	④	スムーズボード工法 高欄リニューアルの事例	(株)大林組 本社 生産技術本部 特殊工法部
	②	イージーラーメン橋 (H鋼を用いた門形ラーメン橋)	(株)加賀田組 営業事業本部 テクノワークスセンター
	③	エコマックス(可塑性注入材)	(株)熊谷組 土木事業本部 リニューアル事業部
	③	斜面スリット型透過式ケーソン 「S-VHS工法」の開発	五洋建設(株) 技術研究所
	④	掘削廃棄物の選別処理作業における環境保全対策	佐藤工業(株) 環境・多角化事業推進部
	④	環境にやさしいPETセグメントの開発と実用化	清水建設(株) 土木技術本部 シールド統括部
	③	構造物直下の地盤改良工法 ーグラウンドフレックスモール工法ー	大成建設(株) 技術センター 土木技術研究所
	②	パーマコート工法の概要と適用事例	(株)竹中土木 名古屋支店 営業部
	②	トンネル覆工コンクリートのひび割れゼロを目指す「前田覆工マルチ工法」の開発	前田建設工業(株) 土木事業本部 土木部 トンネルグループ
⑥	SKILLS超長距離圧送ネオグラウト工法の開発	名工建設(株) 土木本部 土木技術部	
(社)日本道路建設業協会 北陸支部	⑥	振動ローラの加速度応答による舗装工事の品質管理技術	大林道路(株) 技術研究所 工法研究室
	④	延長床版システムプレキャスト工法	(株)ガイアートT・K 本社 技術部
	②	透水性コンクリート舗装のプレパック化	(株)ガイアートT・K 技術研究所

主催機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	機関・会社名・所属
(社)日本道路建設業協会 北陸支部	②	路面モニタリングのための加速度計等を搭載した簡易型測定車の開発	鹿島道路(株) 生産技術本部 技術研究所
	④	環境に優しいポリマー改質アスファルト EC0 バインダー・シリーズ	東亜道路工業(株) 北陸支社 技術部
	⑤	ロードサスペイブ ～道路交通振動低減型舗装～	前田道路(株) 北陸支店 技術課
	②	加熱アスファルト系表面処理工法の開発について	日本道路(株) 北信越支店
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	⑥	プレキャスト RC 版舗装の汎用例	プレキャスト RC 版舗装協会 (福田道路(株))
	②	コンクリートスマートオーバーレイ工法について～狭小橋梁に対応した床版増厚コンクリート工法の開発～	(株)NIPPPO 北信越支店 技術センター
北陸土木コンクリート製品技術協会	②	ワイドウォール工法	(株)ミルコン 北陸営業部
	③	「コニカルマット工法」の開発について	(株)アドヴァンス 開発部
	③	鉄筋コンクリート集水井 設計・施工マニュアル	鉄筋コンクリート集水井検討委員会 (株)アドヴァンス
(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部	②	ニッケル被覆炭素繊維シートを用いた電気防食工法の開発	オリエンタル白石(株) 東京支店 新潟営業所
北陸PC防雪技術協会	③	雁木工法(1車線対応 PC スノーシェッド)の施工報告	日本サミコン(株) 工務部
(社)新潟県融雪技術協会	①	メンテナンス対応型消雪パイプブロックの改良について	(株)興和 水工部
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	⑥	静的圧入締固め工法の液状化対策効果と隆起抑制対策	(株)本間組 土木事業本部 土木部
	⑥	潜水作業管理システムの開発	(株)本間組 土木事業本部 土木部
	②	SPD-M 工法(不透気部付きドレーンを用いた真空圧密工法)の開発	東亜建設工業(株) 技術研究開発センター
	②	新しい消波ブロック ーテトラネオー	(株)不動テトラ ブロック環境事業本部
(社)北陸建設弘済会	②	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法 設計・施工マニュアルの発刊	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法 検討委員会(アダムウォール協会)
(社)日本橋梁建設協会 北陸事務所	②	進化する鋼橋	(社)日本橋梁建設協会 (佐藤鉄工(株) 技術部)

注) テーマ番号 ① 雪に強い地域づくり ② 良いものを安く ③ 自然災害からの安全確保  
④ 環境の保全と創造 ⑤ ゆとりと福祉 ⑥ その他

## 6) パネル展示コーナー

主催機関の傘下会社で開発された新技術・新工法などを対象に技術パネルの展示コーナーを併設した。  
 なお、技術パネルの展示は展示希望を募り、展示希望のあった36技術の技術パネルの展示及び技術パネルの紹介パンフレットの配布を行った。

時 間：9時00分～16時30分（会期中常設）  
 会 場：3階ロビー（ホワイエ）

### 【パネル展示一覧表】

（その1）

No.	技 術 名	機関・会社名・所属	パンフ
国土交通省 北陸地方整備局			
1	NETIS（新技術情報提供システム）	北陸技術事務所 技術情報管理官	2
新潟県			
2	Made in 新潟 新技術普及・活用制度	土木部 技術管理課	5
（社）日本土木工業協会 北陸支部			
3	スムーズボード工法 高欄リニューアルの事例	（株）大林組 本社生産技術本部 特殊工法部	1
4	イーザーラーメン橋（H鋼を用いた門形ラーメン橋）	（株）加賀田組 営業事業本部 テクノワークスセンター	1
5	マックスAZ（水中不分離性高流動無収縮モルタル）	（株）熊谷組 北陸支店 土木部 工事管理G	1
6	S-VHS工法	五洋建設（株） 北陸支店 営業部	1
7	市内電車・富山環状線における制振軌道技術	佐藤工業（株） 北陸支店 土木事業部 土木部	0
8	構造物直下の地盤改良工法 ーグランドフレックスモール工法ー	大成建設（株） 北信越支店 土木部 技術室	2
9	前田覆工マルチ工法	前田建設工業（株） 北陸支店 営業グループ	1
10	SKILLS超長距離圧送ネオグラウト工法の開発	名工建設（株） 北陸支店 営業部	1
11	SP-TOM	鹿島建設（株） 北陸支店 営業部	1
12	エコクーリング舗装	戸田建設（株） 北陸支店	1
13	自由断面発破工法「SG-Blasting」	西松建設（株） 北陸支店 土木部	1
（社）日本道路建設業協会 北陸支部			
14	オークサイレント	大林道路（株） エンジニアリング部	1
15	延長床版システムプレキャスト工法	（株）ガイアートT・K 北陸支店 営業部	1
16	L・Lライン	鹿島道路（株） 北陸支店 工事部 技術課	1
17	環境に優しいポリマー改質アスファルト 「ECOバインダー・シリーズ」	東亜道路工業（株） 北陸支社 技術部	2
18	加熱アスファルト系表面処理工法の開発について	日本道路（株） 北信越支店	1
19	サーモスカラー	（株）佐藤渡辺	1
20	玉砂利自然石舗装「じゃりみち」	世紀東急工業（株） 技術部	1
21	グレーチングストッパーSP	丸運建設（株） 事業開発室	3
（社）日本建設機械化協会 北陸支部			
22	リバーシブル型プレキャストRC版舗装工法	プレキャストRC版舗装協会（福田道路（株））	1
23	コンクリートスマートオーバーレイ工法	（株）NIPPPO 北信越支店 技術センター	1

(その2)

No.	技 術 名	機関・会社名・所属	パンフ
(社)新潟県建設業協会			
24	リサイクル緑化工法(イソイル緑化工法)	小柳建設(株) 本社 営業本部	2
(社)富山県建設業協会			
25	ハイパワースノーフェンス工法(HSF工法)	三和ボーリング(株)	3
北陸土木コンクリート製品技術協会			
26	ワイドウォール工法	(株)ミルコン 北陸営業部 富山営業所	2
27	「コニカルマット工法」の開発について	(株)アドヴァンス 開発部	1
28	皿型V S (皿形タイプ)	(株)ホクエツ信越 新潟営業所	1
29	バリアーフリー縦断管(排水性舗装対応)	(株)ホクエツ北陸 金沢営業所	3
30	S P L工法	藤林コンクリート(株)	1
北陸P C防雪技術協会			
31	A p _ p a s s工法	日本サミコン(株) 企画管理部	1
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部			
32	カキ殻を活用した屋上緑化工法	(株)本間組 建築事業本部 建築営業部	1
33	マジックボール	東亜建設工業(株) 北陸支店 土木事業部 技術課	1
34	テトラネオ	(株)不動テトラ ブロック環境事業本部 北陸技術部	1
(社)北陸建設弘済会			
35	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法 設計・施工マニュアルの発刊	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法検討委員会 (アデムウォール協会)	1
(社)日本橋梁建設協会 北陸事務所			
36	進化する鋼橋	(社)日本橋梁建設協会 (佐藤鉄工(株))	3
パンフレット数 合計			52



パネル展示コーナー

## 7) NETIS等登録技術コーナー

「新技術情報提供システム（NETIS）」及び「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」などの登録技術を対象にパンフレット配布による技術紹介コーナーを併設した。

なお、パンフレットは配布希望を募り、希望のあった38技術の紹介パンフレットを配布した。

時 間：9時00分～16時30分（会期中常設）

会 場：3階ロビー（ホワイエ）

【NETIS等登録技術一覧表】

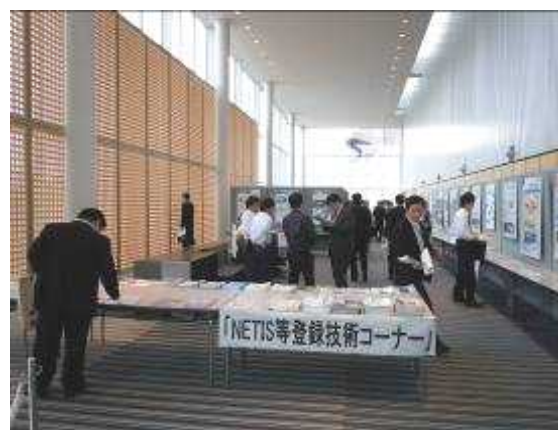
（その1）

No.	技術名	会社名・所属	登録機関名 <sup>注)</sup>	登録番号
（社）日本土木工業協会 北陸支部				
1	イージースラブ橋（H鋼桁床版橋）	（株）加賀田組 営業事業本部 テクノワークスセンター	国土交通省 石川県	HR-020028-A 1
2	サポートライニング工法	（株）熊谷組 北陸支店 土木部 工事管理G	国土交通省	KT-050047-A
3	RCT工法	佐藤工業（株） 北陸支店 土木事業部 土木部	国土交通省	KT-070032-A
4	エコクーリング舗装	戸田建設（株） 北陸支店	国土交通省	KT-070004-A
（社）日本道路建設業協会 北陸支部				
5	オークサイレント	大林道路（株） エンジニアリング部	国土交通省	KK-980011-A
6	延長床版システムプレキャスト工法	（株）ガイアートT・K 北陸支店 営業部	国土交通省	KT-090058-A
7	L・Lライン	鹿島道路（株） 北陸支店 工事部 技術課	国土交通省	HK-080012-A
8	遮水型排水性舗装（POSMAC）	東亜道路工業（株） 北陸支社 技術部	国土交通省	KT-040084-V
9	RCメッシュG		国土交通省	KT-010233-A
10	TOAピュアカラー		国土交通省	KT-060054-A
11	アメニウレタン舗装	日本道路（株） 北信越支店	国土交通省	TH-990054-V
12	シャットファルト		国土交通省	SK-040008-A
13	セミホットペープ		国土交通省	QS-040029-V
14	シンシンプロック槽	（株）佐藤渡辺	国土交通省	KT-990581-A
15	グレーチングストッパーSP	丸運建設（株） 事業開発室	国土交通省 新潟県	HR-050026-A 18D1045
16	グレーチングストッパー		国土交通省 新潟県	HR-030035-A 18D1044
（社）日本建設機械化協会 北陸支部				
17	リバーシブル型プレキャストRC版 舗装工法	プレキャストRC版舗装協会 （福田道路（株））	国土交通省	HR-990034-A
18	ランブルストリップス	（株）NIPPO 北信越支店 技術センター	国土交通省	HK-030032-V
19	クールパーピラス		国土交通省	TH-020057-A
20	エコファイン		国土交通省	CB-980017-A
21	ストリートプリント		国土交通省	KT-980120-A

(その2)

No.	技術名	会社名・所属	登録機関名 <sup>注)</sup>	登録番号
北陸土木コンクリート製品技術協会				
22	ワイドウォール工法	(株)ミルコン 北陸営業部 富山営業所	国土交通省	SK-050012-A
23	連結空積ブロック「ふる里」	(株)アドヴァンス 開発部	国土交通省	HR-020013-A
24	大型残存パネル		国土交通省 新潟県	HR-070014-A 21D1013
25	組立集水井筒(シールド式)		国土交通省 新潟県	HR-030016-A 18D2003
26	フレックス笠コンブロック		国土交通省 新潟県	HR-990108-V 21D1014
27	スーパーグラストン		国土交通省	HR-080026-A
28	ユニバーサル側溝	(株)ホクエツ信越 新潟営業所	新潟県	21D1005
29	SPL工法	藤林コンクリート(株)	国土交通省	TH-010027-A
北陸PC防雪技術協会				
30	雁木工法	日本サミコン(株) 企画管理部	新潟県	18D2025
31	ランクアップフェンス (小規模落石防護柵)		国土交通省	HR-090013-A
32	支柱脚部改良型鋼製吊柵		新潟県	20D1017
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部				
33	トゥーリフレッシャーシステム	(株)本間組 土木事業本部 土木部	国土交通省 新潟県	HR-990011-A 18D1012
34	カキ殻を活用した屋上緑化工法	(株)本間組 建築事業本部 建築営業部	国土交通省 新潟県	HR-090001-A 21K1001
35	ガンパイル工法	東亜建設工業(株) 北陸支店 土木事業部 技術課	国土交通省	KT-990499-A
36	ペルメックス	(株)不動テトラ ブロック環境事業本部 北陸技術部	国土交通省	KT-090024-A
37	ドロスII型		国土交通省	SKK-090004-A
(社)北陸建設弘済会				
38	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工 法 設計・施工マニュアルの発刊	ジオテキスタイル二重壁補強土壁工法検討 委員会 (アダムウォール協会)	国土交通省	KK-020061-V

注) 国土交通省ー「新技術情報提供システム (NETIS)」  
 新潟県ー「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」  
 石川県ー「石川県 建設新技術認定・活用制度」



NETIS 等登録技術コーナー

## 8) CPD/CPDS 認証プログラム

社会資本整備に携わる建設技術者の技術力向上の場として、本報告会を積極的に活用していただくことを目的に、平成20年度より建設系 CPD 協議会による「CPD（継続教育）」プログラム及び社団法人全国土木施工管理技士会連合会による「CPDS（継続学習制度）」の認定講習となっており、その対象者への受講証明の交付を行った。

### ■ 受講受付

時間：9時00分～10時00分  
 場所：3階ロビー（ホワイエ）  
 聴講受付—受講証明書引換券配付

### ■ 受講証明発行

時間：16時30分～17時00分  
 場所：3階ロビー（ホワイエ）  
 CPD/CPDS 受付—引換券により受講証明書発行

平成22年度 受講証明書交付数：275人（CPD—87人 CPDS—188人） \*講者数の約50%

建設系CPD協議会によるCPD（継続教育）  
 受講証を申し込まれた方へ

北陸地方建設事業推進協議会  
 平成22年度「建設技術報告会」

**受講証明書 引換券**  
 CPD（継続教育）

受講証明書発行 閉会式終了後（16時30分～17時00分）  
 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会

CPD 受講証明書引換券

(社)全国土木施工管理技士会連合会のCPDS（継続学習制度）  
 受講証を申し込まれた方へ

北陸地方建設事業推進協議会  
 平成22年度「建設技術報告会」

**受講証明書 引換券**  
 CPDS（継続学習制度）

受講証明書発行 閉会式終了後（16時30分～17時00分）  
 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会

CPDS 受講証明書引換券

建設系CPD協議会加盟団体主催CPD申請書・受講証明書

建設系CPD協議会加盟団体の主催する講習会受講記録を、地産工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会のいずれかにCPD申請する場合は、以下の内容を記入して、プログラム開催主催者の受講証明印をもらった上で団体事務局にて送付（FAX）してCPD申請を行ってください。

項目名	申請内容
申請日	年 月 日
申請者名	
会社名等	
申請者情報	会社住所等
情報	TEL
	FAX
	所属団体（学会）名
	会員番号
開催日	平成22年 9月30日
プログラム	CPDプログラム名称
	CPDプログラム番号：201007260002
主催者	平成22年度「建設技術報告会」実行委員会
開始～終了時間	9時30分～16時30分
CPD単位	5単位
開催地	富山県富山市大手町1番2号
	富山国際会議場（大手町フォーラム）

【CPDプログラム主催者の方へお願い】  
 プログラム名、開催日、受講者氏名をご確認の上、証明団体を記入して証明印をお願いいたします。

証明団体名 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会

※CPD記録申請にあたって本受講証明が必要となる団体  
 建設工学会、全国土木施工管理技士会連合会、農業農村工学会

CPD 受講証明書

No.

受講証明書

講者名 又は 通し番号			
プログラム名称	平成22年度「建設技術報告会」(広報)		
プログラム番号	109124	ユニット数	5 unit
講習日	2010年9月30日		
講習時間	9:30 ~ 16:30		
講習会場	【富山県】富山国際会議場(大手町フォーラム)		

上記の者について、講習会を受講したことを証明します。  
 2010年9月30日  
 主催：北陸地方整備局北陸技術事務所  
 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会

CPDS 受講証明書



CPD/CPDS 受講案内



CPD/CPDS 受講証明発行



### 3. 準備及び運営・設営

#### 1) スケジュール

平成22年度「建設技術報告会」は、下記のとおり実施した。

北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術報告会」運営スケジュール

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
<b>実行委員会等</b>											
北陸地方建設事業推進協議会 運営委員会	● 3/10										
実行委員会事前準備											
会計監査									● 11/16		
実行委員会			● 5/12							● 11/25	
協議・決定事項等				<ul style="list-style-type: none"> <li>・規約(案)の協議・承認</li> <li>・実施計画(案)の協議・承認</li> <li>・予算(案)の協議・承認</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施状況報告</li> <li>・決算報告</li> </ul>	
<b>報告技術募集及び原稿作成等</b>											
案内原稿作成(チラシ)			報告技術募集		聴講募集						
ホームページ開設・運営			作成	5/13	報文・パネル等募集	6/4	開催告知	7/20	聴講募集	9/10	作成
報告技術募集・取りまとめ (主催機関)			5/13		6/18					10月下旬	12月下旬
報告技術検討・選定					6/21	7/15					
採否通知 (事務局)						7/15					
報告論文原稿作成・提出 (報告技術発表者)						7/15	8/16				
プレゼンデータ作成・提出 (報告技術発表者)						7/15	8/31				
パネル展示募集・取りまとめ (主催機関)			5/13		6/18						
NETIS等登録技術パンフレット配布募集・取り まとめ(主催機関等)			5/13		6/18						
聴講募集(主催機関等)						7/20	9/10	9/22	延長期間		
報告論文集(CD版)作成							校正・作成	CD作成	●発表者発送	●主催機関発送	
						8/9	8/31	9/15		10/8	
<b>その他</b>											
記念講演者依頼・報道投込み				基調講演者選定及び依頼					●報道関係への投げ込み		
				6月下旬					9/15		
CPD/CPDSプログラム登録申請						7月中旬					
報告会開催									●	9/30(木)	

#### 2) 主な経緯

会議名等	実施日時	会場	内容
平成22年度 北陸地方建設事業推進協議会 運営委員会	平成22年3月10日(火)	北陸地方整備局 4階 会議室	「建設技術報告会」の開催承認
平成22年度「建設技術報告会」 第1回実行委員会	平成22年5月12日(水) 14時30分~16時00分	北陸地方整備局 4階 共用会議室	規約(案)の協議・承認 実施計画(案)の協議・承認 予算(案)の協議・承認
平成22年度「建設技術報告会」 実行委員会新規加盟機関について	平成22年5月28日(水)	主催機関へ回答依頼(送 付状)	(社)日本橋梁建設協会の実行委員 会加盟の可否検討→承認
平成22年度「建設技術報告会」開催	平成22年9月30日(木) 9時00分~17時00分	富山国際会議場 3階メインホール 2階多目的会議室	報告会開催
平成22年度「建設技術報告会」 第2回実行委員会	平成22年11月25日(木) 13時15分~14時30分	北陸地方整備局 4階 会議室	実施結果報告 決算報告 次回開催について

### 3) 運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ及び会場施設スタッフの33名（官：19名、民：14名）の協力により実施した。

【運営体制表】

担当・対応時間・会場等		運営人員	北陸地方整備局 16人	富山県 3人	富山建設業協会 3人	土木工業協会 3人	道路建設業協会 3人	建設機械化協会 2人	埋立浚渫協会 2人	その他 1人	
受付係	9:00-16:30 受付開始→閉会終了(終日)	3		糸谷 寛		相川 晴香	荒川 まさ子				
	9:00-10:25 受付開始→講演終了	9		谷 宗行 喜田 敦	寺島 秀峰 中川 優子 吉田 明美	早川 文夫	村上 まどか	北島 信行 久才 幹夫			
	9:00-17:00 受付開始→最終(終日)	3	山本 茂樹 谷澤 俊夫 田邊 剛								
	16:30-17:00 閉会終了→最終	1 (4)	(石田 正樹) (高橋 信幸) 樋口 昌幸 (小林 弘朗) (田岡 浩太郎)								
技術報告	司会係	10:35-14:00 (Ⅰ・Ⅱ) 14:00-16:10 (Ⅲ・Ⅳ)	1 (1)	(石田 正樹)			山崎 久義				
		10:35-14:00 (Ⅰ・Ⅱ) 14:00-16:10 (Ⅲ・Ⅳ)	1 (1)	(高橋 信幸)			林 常夫				
	時間管理係	第1会場	(1)			(寺島 秀峰)					
		第2会場	(1)		(谷 宗行) (喜田 敦)						
	パソコン係	第1会場	(1)				(早川 文夫)				
		第2会場	(1)								
	マイク受渡係	第1会場	(2)			(中川 優子)			(北島 信行)		
		第2会場	(2)			(吉田 明美)			(久才 幹夫)		
	会場照明係	第1会場	1								施設担当 スタッフ
		第2会場	(1)					(村上 まどか)			
写真係	9:00-10:25 全体 (開会・講演)	2							神蔵 昌士 安藤 敏宏		
	第1会場	(1)							(神蔵 昌士)		
		第2会場	(1)							(安藤 敏宏)	
事務局	総合司会	9:30-9:40 9:40-10:25 16:20-16:30	1	柴澤 一嘉							
	来賓対応	9:00-11:00	1	宮村 兵衛							
	マスク対応	10:25-16:10	2 (2)	(柴澤 一嘉)							
		9:00-14:00		石田 正樹							
		16:10-16:30		高橋 信幸							
		9:00-14:00									
		16:10-16:30 9:00-16:30 (適宜)		(古川 貴英)							
	連絡調整係	8:30-17:00	1	古川 貴英							
	全体写真係 (実施状況・開閉会・基調講演)	8:30-17:00	1	加藤 学							
	運営設営係	9:30-9:40 10:25-10:35 16:10-16:20	4 (5)	(加藤 学) 田岡 浩太郎 林 久之 岡 大人 (古川 貴英) (山本 茂樹) (谷澤 俊夫) (田邊 剛) 小林 弘朗							
16:20-17:00		(パネル撤収)									
講師送迎	8:30-12:00	1	池田 弘								
接遇係	8:30-11:00	1	小林 千世								



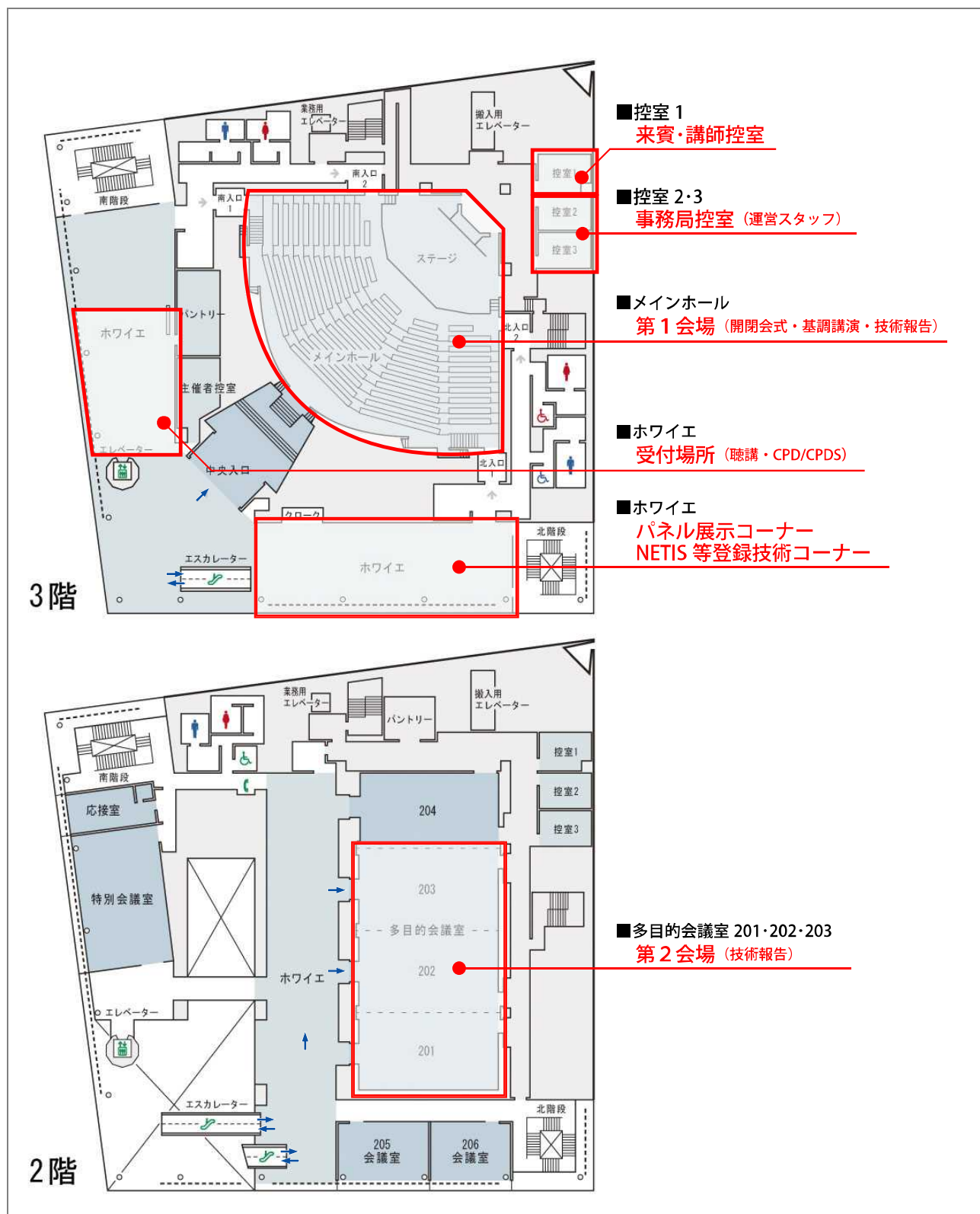
機関・団体別 スタッフ人数

国土交通省 北陸地方整備局					主催 協力機関・団体							その他	合計
企画部	港湾空港部	新潟	北陸	小計	富山県	富建協	土工協	道建協	機械協	埋浚協	小計	施設 スタッフ	
施工企画課	海洋環境・技術課	技調	技術										
5	1	1	9	16	3	3	3	3	2	2	16	1	33

## 4) 会場設営

### ■フロアマップ

2・3階フロアの使用会場の位置を示す。



■フロアレイアウト図

1階 平面図

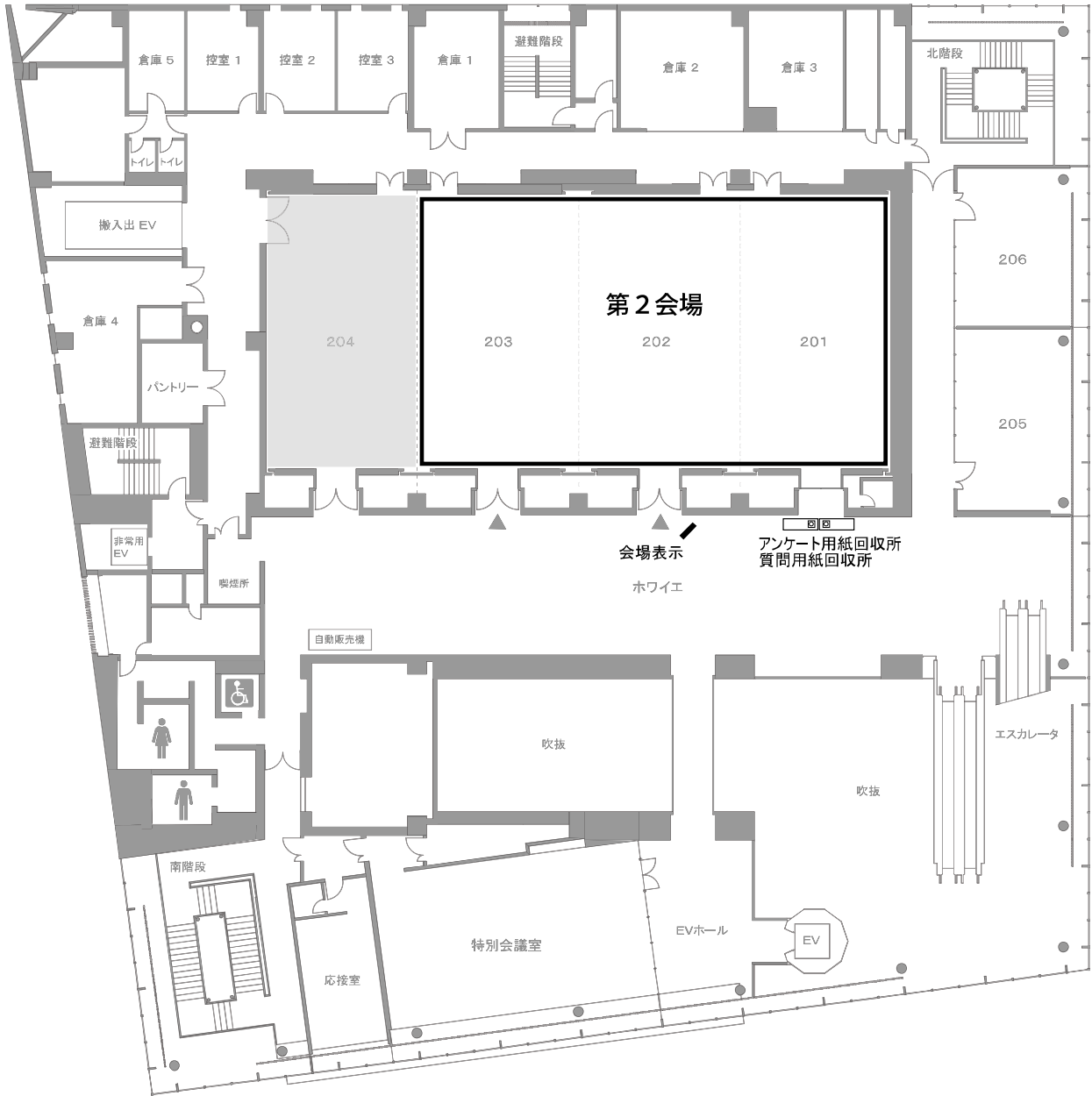


催事案内 (看板・イーゼル設置)



受付誘導表示

## 2階 平面図

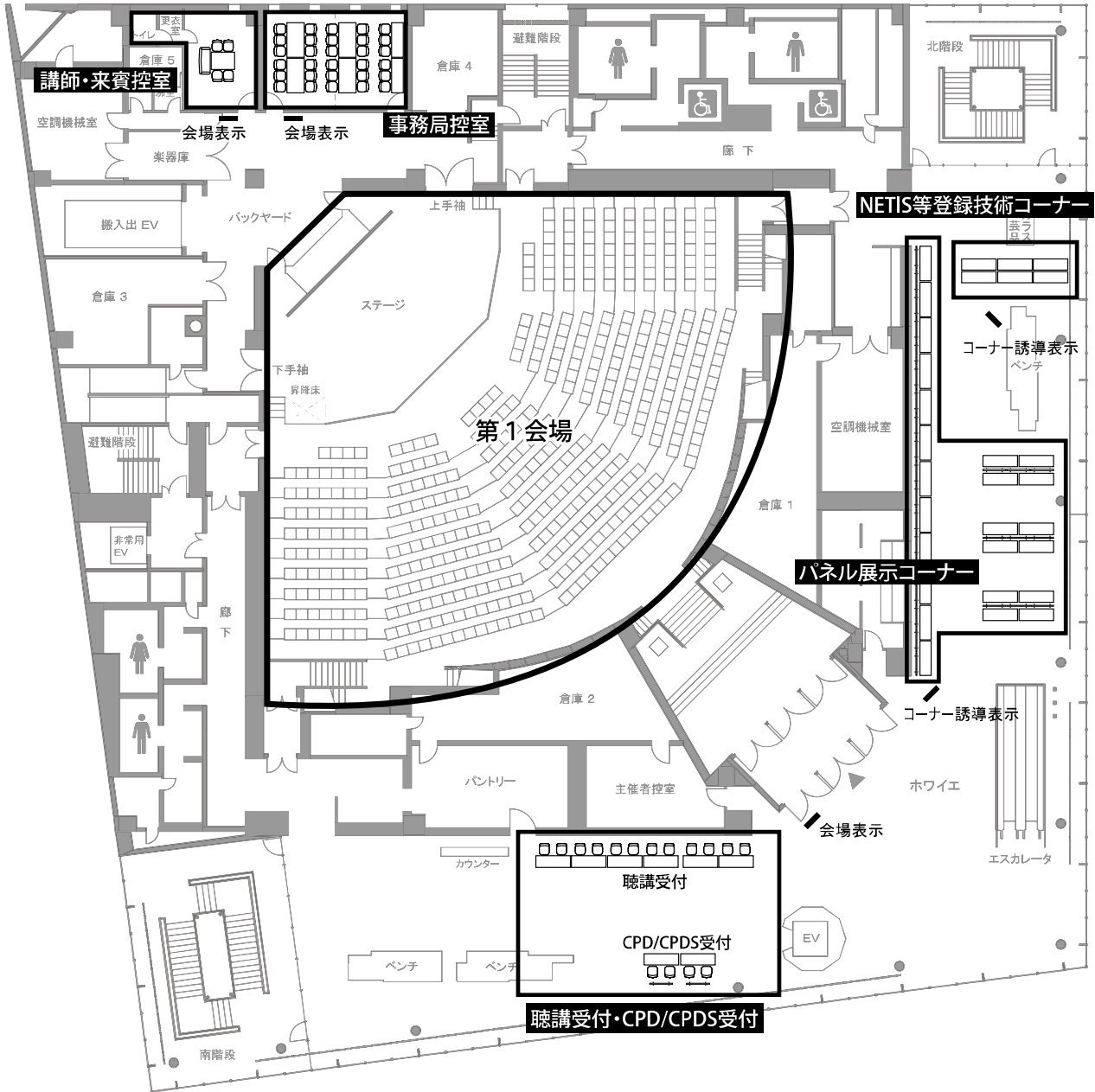


会場表示 (第2会場)



アンケート・質問用紙回収所

3階 平面図



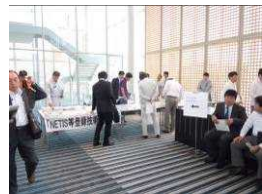
聴講受付



CPD/CPDS 受付



パネル展示コーナー



NETIS 登録技術コーナー



会場表示 (第1会場)



控室表示  
(講師来賓・事務局)

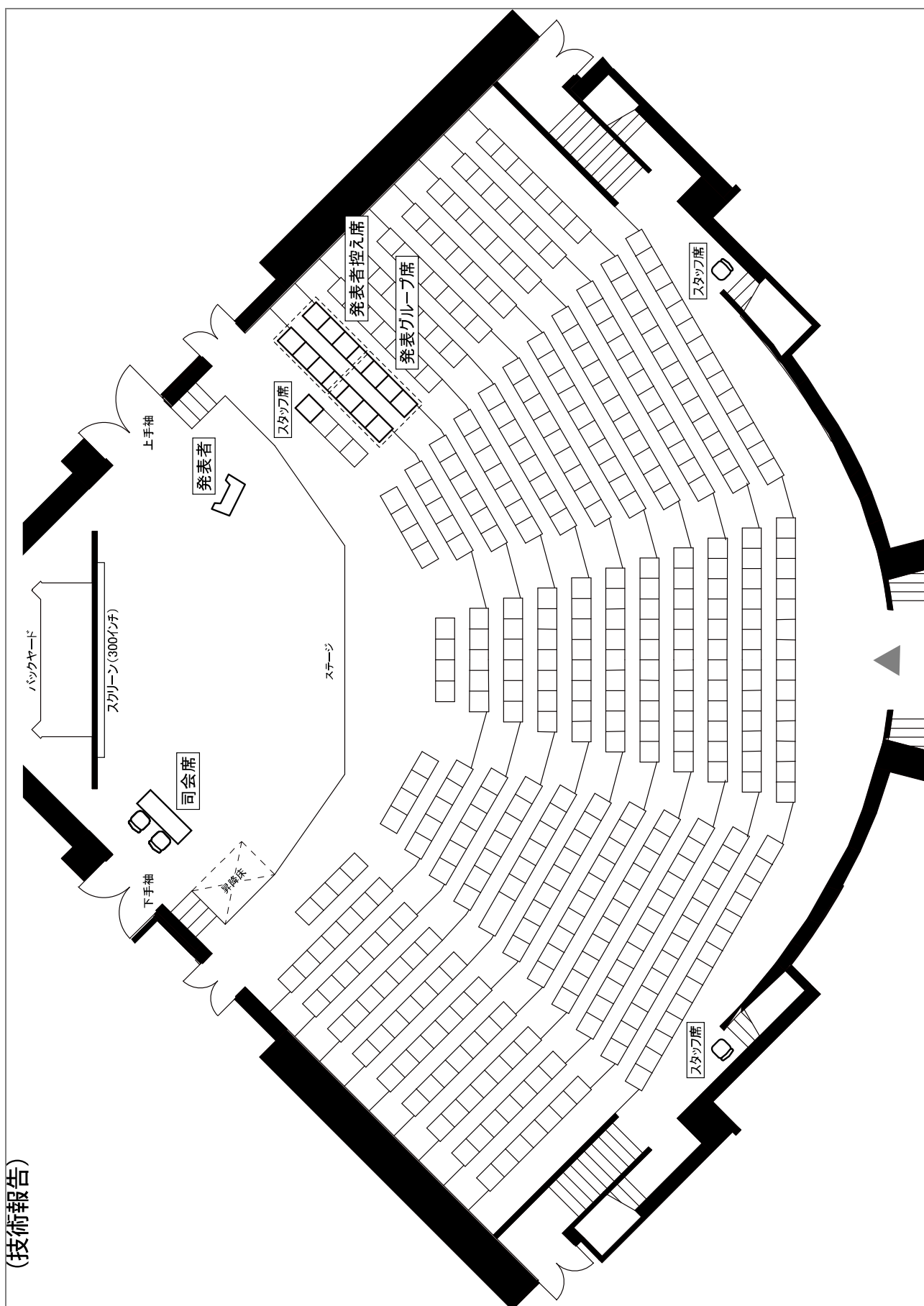


講師・来賓控室

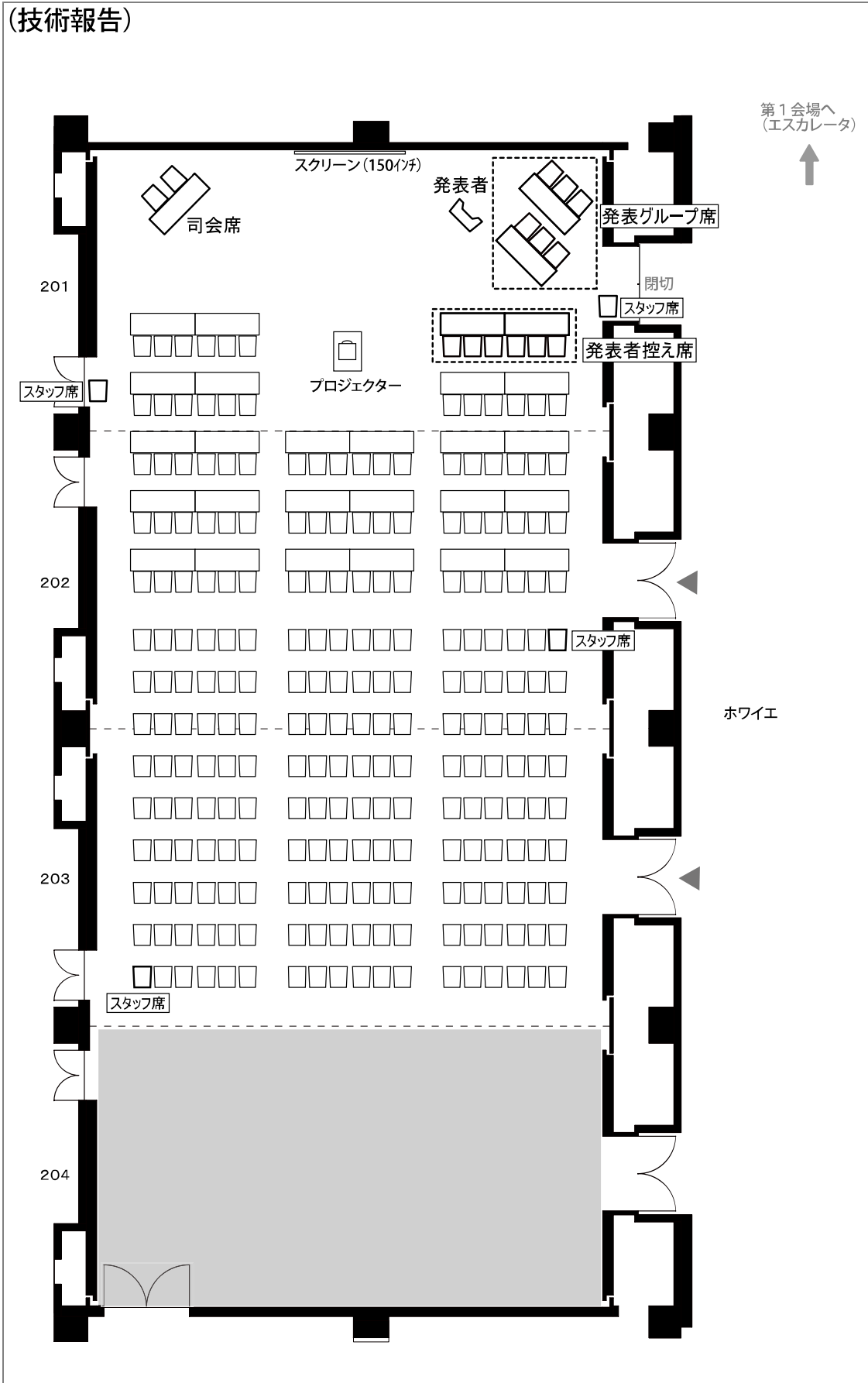


事務局控室

- 会場詳細レイアウト図
- 第1会場（メインホール）

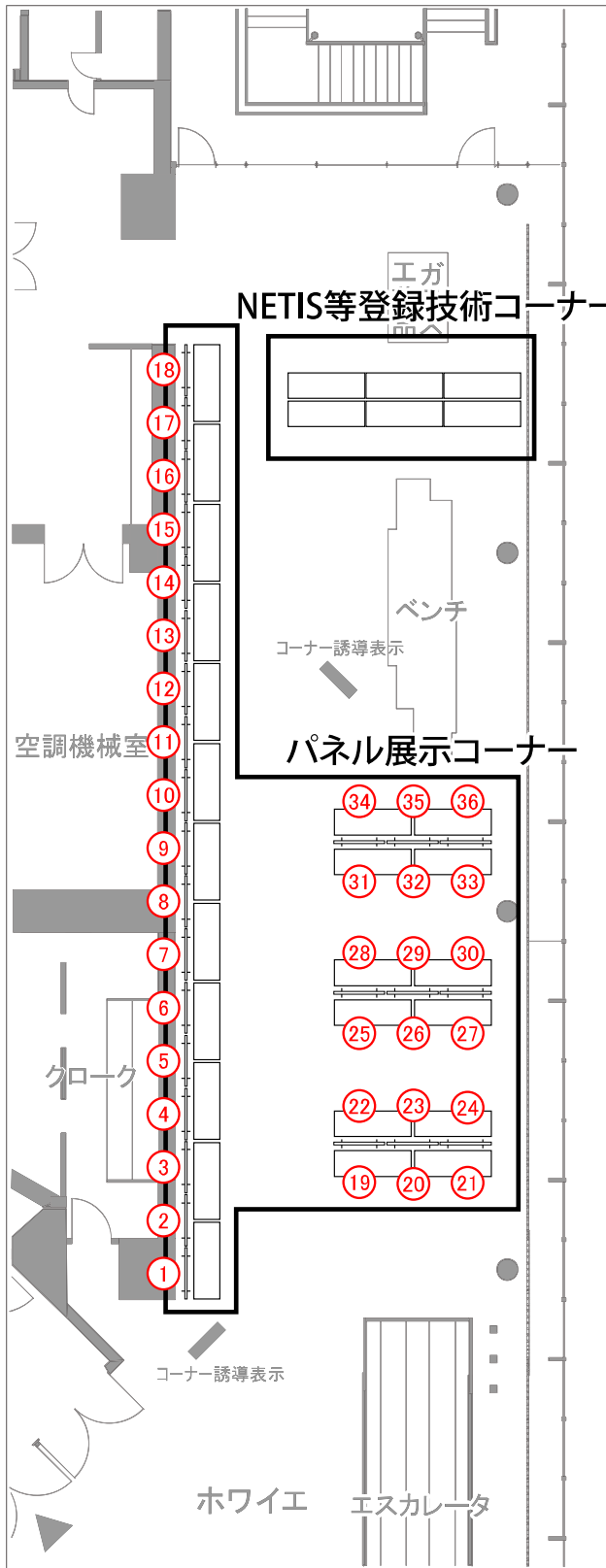


■第2会場（多目的会議室201～203）





■ 3階ロビー（ホワイエ：北側）パネル展示コーナー・NETIS等登録技術



1 北陸地方整備局 北陸技術事務所	NETISの紹介
2 新潟県	Made in 新潟 新技術普及・活用制度
3 (株)大林組	スームボード工法 高欄リニューアルの事例
4 (株)熊谷組	マックスAZ (水中不分離性高流動無収縮モルタル)
5 大成建設(株)	グランドフレックスモール工法
6 戸田建設(株)	エコウリング舗装
7 名工建設(株)	SKILLS超長距離圧送ネオグラウト工法
8 (株)アドヴァンス	コニカルマット工法
9 (株)本間組	カキ殻を活用した屋上緑化工法
10 (株)加賀田組	イーザーラーメン橋 (H鋼桁埋込RC複合門形ラーメン橋)
11 佐藤工業(株)	市内電車・富山環状線における 制振軌道技術
12 西松建設(株)	自由断面発破工法「SG-Blasting」
13 前田建設工業(株)	前田覆工マルチ工法
14 大林道路(株)	オークサイレント
15 (株)ガイアートT・K	延長床版システムプレキャスト工法
16 鹿島道路(株)	L・Lライン
17 (株)佐藤渡辺	サーモカラー
18 世紀東急工業(株)	玉砂利自然石舗装「じゅりみち」
19 東亜道路工業(株)	ECOバインダー・シリーズ
20 丸運建設(株)	グレーチングスツーパーSP
21 日本道路(株)	加熱アスファルト系表面処理工法 (リフレッシュシールMix)
22 プレキャストRC版舗装協会	リバーシブル型プレキャストRC版舗装工法
23 (株)NIPPO	コンクリートスマートオーバーレイ工法
24 小柳建設(株)	リサイクル緑化工法(イソイル緑化工法)
25 三和ポーリング(株)	ハイパワースノーフェンス工法(HSF工法)
26 (株)ホクエツ信越	皿型VS(皿形タイプ)
27 (株)ホクエツ北陸	バリアフリー縦断管(排水性舗装対応)
28 藤林コンクリート(株)	SPL工法
29 (株)ミルコン	ワイドウォール工法
30 日本サミコン(株)	Ap_pass工法
31 佐藤鉄工(株)	進化する鋼橋
32 ジオテキスタイル二重壁 補強土壁工法検討委員会	ジオテキスタイル二重壁 補強土壁工法(アダムウォール)
33 (株)不動テトラ	テトラネオ
34 鹿島建設(株)	SP-TOM
35 五洋建設(株)	S-VHS工法
36 東亜建設工業(株)	マジックボール

## 4. 広報

### 1) 広報活動

	種別・内容	方法	時期	摘要
チラシ配布	報告技術募集用 (北技HP掲載)	配布・募集	5月13日～	実行委員会 主催機関・団体
	聴講募集用 (紙・電子データ)		7月20日～	
定期刊行誌	北陸の建設技術 各主催機関・団体	掲載 掲載依頼	8月号(聴講募集) 11月号(開催結果) 適宜	
記者クラブ	新潟県政記者クラブ 新潟県政記者クラブ 富山県政記者クラブ 石川県政記者クラブ 山形県政記者クラブ 長野県政記者クラブ 福島県政記者クラブ 岐阜県政記者クラブ 福井県政記者クラブ	記者発表	9月15日	開催概要 プログラム
建設専門誌	新潟県、富山県、石川県 山形県、長野県、福島県 福井県			
ホームページ	北陸技術事務所	開設・運用	5月13日～(報告技術募集)	
	各主催機関・団体		7月20日～(聴講募集) 適宜	

### 2) 広報等掲載一覧

#### ■新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成22年9月17日(金)
		平成22年11月9日(火)
建設通信新聞	日刊建設通信新聞社	平成22年10月4日(月)
建設工業新聞	北陸工業新聞社	平成22年10月1日(金)

#### ■定期刊行誌

掲載紙	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	8月号(聴講募集)、11月号(開催結果)
ゆう	(社)日本土木工業協会北陸支部	49号(11月発刊掲載予定)
あかしや通信	(社)日本建設機械化協会北陸支部	2011.3月号(4月発刊掲載予定)

#### ■ホームページ

掲載機関	ホームページアドレス	掲載コンテンツ
(社)日本建設機械化協会北陸支部	<a href="http://www.niigata-inet.or.jp/jcmahoku/">http://www.niigata-inet.or.jp/jcmahoku/</a>	「What's news」 「トップ(バナー掲載)」
(社)新潟県融雪技術協会	<a href="http://www.yuusetsu.com/">http://www.yuusetsu.com/</a>	「トップ(バナー掲載)」
(社)北陸建設弘済会	<a href="http://www2.hokurikutei.or.jp/">http://www2.hokurikutei.or.jp/</a>	「お知らせ」 「トップ(バナー掲載)」
国土交通省新潟港湾空港技術調査事務所	<a href="http://www.gicho.pa.hrr.mlit.go.jp/">http://www.gicho.pa.hrr.mlit.go.jp/</a>	「トップ(バナー掲載)」
国土交通省北陸技術事務所	<a href="http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/">http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/</a>	「トップ(バナー掲載)」

■ 新聞報道

日刊建設工業新聞 平成22年9月17日(金)

### 北陸整備局 富山で建設技術報告会

## 30日に34件発表

北陸地方整備局は30日、富山市の富山国際会議場で10年度の建設技術報告会を開き、主に北陸管内の企業が発表した。報告会を主催し、管内の企業が開発した技術を広く紹介し、よりいっそうの普及を図ろうとすることを目的に、35年度から毎年開いており、今年で15回目となる。

会場では、「雪に強い地域づくり」、良いものをお安くするテーマにした課題など、34技術の発表と、36技術のパネル展示を行った。

北陸地方整備局は30日、富山市の富山国際会議場で10年度の建設技術報告会を開き、主に北陸管内の企業が発表した。報告会を主催し、管内の企業が開発した技術を広く紹介し、よりいっそうの普及を図ろうとすることを目的に、35年度から毎年開いており、今年で15回目となる。

会場では、「雪に強い地域づくり」、良いものをお安くするテーマにした課題など、34技術の発表と、36技術のパネル展示を行った。

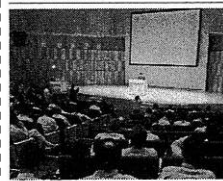
- ▽マンダラ建設業連連 対称型道路パイロロックシート付いた電設工事の改良(開水工部、マローの開発)▽リネタル白石工場の改良(開水工部、マロー)▽土木研究所 建築用高強度鉄骨鋼材の開発(北陸整備局北陸技術センター、北陸建設センター)▽土木研究所 建築用高強度鉄骨鋼材の開発(北陸整備局北陸技術センター、北陸建設センター)
- ▽マンダラ建設業連連 対称型道路パイロロックシート付いた電設工事の改良(開水工部、マローの開発)▽リネタル白石工場の改良(開水工部、マロー)▽土木研究所 建築用高強度鉄骨鋼材の開発(北陸整備局北陸技術センター、北陸建設センター)
- ▽マンダラ建設業連連 対称型道路パイロロックシート付いた電設工事の改良(開水工部、マローの開発)▽リネタル白石工場の改良(開水工部、マロー)▽土木研究所 建築用高強度鉄骨鋼材の開発(北陸整備局北陸技術センター、北陸建設センター)

平成22年11月9日(火)

### 建設技術のためまぬ革新をアピール

北陸整備局の報告会

北陸地方整備局などに  
よる10年度の建設技術報告会がこのほど、富山の人を集めて、富山市の国



際会議場で開かれた。写真、真。コスト削減などを意図した新技術や新工法が発表され、国民生活の安全と安心や地域づくりを支える建設技術のためまぬ革新がアピールされた。同日、北陸3県、関係団体などでつくる北陸地方建設事業推進協議会(会長・前川秀和北陸整備局長)が主催した。報告は2会場で行われ、コスト削減や省力化など生産性向上にかかわるものが14題と4割を占めた。

会場では、新技術や新工法を紹介する36社・団体のパネルも展示され、先進的な環境保全技術や合理化工法などに足を止める姿が目立った。CPDSで7人受講し、講演を含む報告会は、全国の土木施工管理技士会などの継続教育認定プログラム(CPDS)に認定されている。受講者は約270人になり、09年度(約150人)を大幅に上回った。一連のキャリアアップ終了後、受講証明書が交付された。長蛇の列ができていた。

建設通信新聞 平成22年10月1日(金)



北陸地方建設事業推進協議会は30日、富山市の富山国際会議場で10年度建設技術報告会を開催し、行政・民間の技術者が大勢参加した。この報告会は北陸における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁および民間会社において新技術や新工法などを発表し、研究開発された新技術を広く紹介し、よりいっそうの普及を図ろうとすることを目的に、35年度から毎年開いており、今年で15回目となる。

会場では、「雪に強い地域づくり」、「良いものをお安くする」テーマにした課題など、34技術の発表と、36技術のパネル展示を行った。

北陸地方建設事業推進協議会

# 良いものを安く

超30件

## 北陸地方建設技術報告会開く

富山国際会議場

建設工業新聞 平成22年10月4日(月)

## 34の新技術発表

北陸整備局から建設技術報告会

北陸地方における建設事業を円滑に推進するため、官民が共同開催した新技術や新工法などを発表する建設技術報告会が9月30日、富山市の富山国際会議場(大手町フォーラム)で開かれた。

北陸地方整備局、管内自治体などの官公庁、業団体で構成する北陸地方建設事業推進協議会の建設技術報告会実行委員会が1995年度から開催している報告会で、15回目を迎える。今回は36技術のパネル展示に加え、「雪に強い地域づくり」、「良いものをお安く」、「自然災害からの安全確保」、「環境の保全と創造」1「ゆと

報告会に先立ち、前田英雄富山県郷土史会会長による「富山県の治水に貢献したオランダ人技師(ローウェンホルスト・ムルデル、ヨハネス・ド・レイケ)」と題する基調講演も行われた。

VOL.230  
8  
2010  
**北陸の建設技術**  
北陸地方建設事業推進協議会

平成22年度 建設分野の新技术・新工法の報告会  
**建設技術 報告会**  
平成22年 開催日 9/30(木)  
会場 富山国際会議場 (大手町フォーラム)  
**聴講者募集中**

～建設分野に関する新技术・新工法などを発表します～  
○本報告会はCPD/CPDSの登録プログラムになっています。(5単位)

スケジュール  
受付 9:00～【3階ホワイエ】  
開会式 9:30～第1会場【メインホール】  
基調講演 9:40～第1会場【メインホール】  
「富山の治水に貢献したオランダ人技師」  
講師：前田 英雄氏（富山県郷土史会長）  
技術報告 10:35～第1会場【メインホール】  
10:35～第2会場【多目的会議室】  
閉会式 16:20～第1会場【メインホール】

聴講無料

主催 北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会  
問い合わせ先 (株)交通公社 北陸地方整備局 北陸技術事務所 〒900-1101 富山県田原山田2314番地5号 担当：吉川・加藤  
TEL: 076-231-1284 FAX: 076-231-1283 E-mail: hokugi@hrr.mlit.go.jp  
ホームページアドレス <http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/>

## TOPICS

### 建設分野の新技术・新工法 平成22年度「建設技術報告会」を開催

■平成22年度「建設技術報告会」実行委員会

9月30日(木)に北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会が主催する「建設技術報告会」が富山市の富山国際会議場(大手町フォーラム)において、約550名の聴講者を集めて開催されました。この「報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技术・新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図ることを目的に平成7年度から開催され今年で15回目となっています。

開会式では主催者を代表して北陸地方整備局小池企画部長が、「新技术・新工法を公共工事等において積極的に活用することにより、より良い社会資本整備が図られることを期待しております」と挨拶。これに引き継ぎ「基調講演」として、富山県郷土史会前田会長より「日本の治水に貢献したオランダ人」と題し、明治初期に「お雇い外人」として富山県を始めたとする日本国内の社会資本整備を担ったオランダ人技師の功績について講演頂きました。

◆ 聴講者の皆様に、「特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術及び関心の高かった技術」についてアンケートしたところ、以下の報告が上位にランクされました。

- ★ 環境にやさしいPETセグメントの開発と実用化(清水建設 土木技術本部)
- ★ メンテナンス対応型滑りパイプブロックの改良について(林興和 水工部)
- ★ 延長床版システムプレキャスト工法(株)ガイアート・K 本社 技術部)

◆ 会場ロビーに於いては、「新技术パネル展示コーナー」及び「NETIS登録技術等パンフレット配布コーナー」を併設し、26技術のパネル展示と38技術のパンフレット配布を行い、情報収集の場として活用いただきました。

◆ 社会資本整備に携わる技術者の技術力向上の場として、この報告会を積極的に活用していただくため、昨年に引き続き建設コンサルタンツ協会のCPDと出全国土木施工管理技士連合会のCPDSの認定プログラムを申請し、259名の技術者に受講証明を発行しました。

最後に、本報告会の実行委員長である北陸技術事務所の矢田事務所長から発表内容についての総評並びに閉会挨拶で最後を締め切りました。多数の聴講者の参加により、新技术の活用・普及に向け大変有意義な報告会となりました。

多数の聴講ありがとうございました。

◆ 北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術報告会」実行委員会構成機関  
北陸地方整備局、新潟県、富山県、石川県、新潟市、東日本高速道路(株)新潟支社、中日本高速道路(株)金沢支社、(株)日本土木工業協会北陸支部、(株)日本道路建設協会北陸支部、(株)建設コンサルタンツ協会北陸支部、(株)日本建設機械化協会北陸支部、(株)新潟県建設業協会、(株)富山県建設業協会、(株)石川県建設業協会、(株)新潟県建設業協会、(株)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部、北陸PC防雪技術協会、(株)新潟県融雪技術協会、(株)新潟県建設技術センター、北陸地質調査業協会、(株)日本理定波南協会北陸支部、(株)北陸建設弘済会、(株)日本橋梁建設協会北陸事務所

3 北陸の建設技術 2010. 11

北陸の建設技術 2010. 11 4

■ ホームページ

(社) 日本建設機械化協会 北陸支部

21世紀 建設技術で拓く北陸の明日!!

社団法人 日本建設機械化協会北陸支部  
〒950-0055 新潟市中央区新大町5-1 真和ビル5F TEL 025-280-0128 FAX 025-280-0134

目次 [Top]

1. 北陸支部概要
2. 組織図
3. 行事案内
4. 経験講習会のお知らせ
5. 発行図書のご案内
6. 北陸支部会員の皆様へ
7. 北陸支部文庫・報告書
8. 除雪工法の紹介
9. 北陸サロン(ご意見箱)
10. 本部・支部リンク

**建設技術報告会**

What's New

- 『建設技術報告会』北陸地方建設専門推進協議会  
平成22年9月30日 富山国際会議場
- 『雪害対策マニュアル』(平成20年3月)
- 『河川川門設備点検・整備・更新検討マニュアル(案)』(平成20年3月)
- 『国土交通省』
- 『河川川門設備点検・整備・更新検討マニュアル(案)』(平成20年3月)
- 『国土交通省』
- 『よりよい施工体制の確保を求めて(機械設備工事編)』(平成20年4月)
- 『北陸地方整備局』
- ゆきみらい2008in高岡『除雪機械展示・実演会』開催報告 (社)日本建設機械化協会  
平成21年2月12日～13日 高岡文化の森特設会場
- ボランティアに対する除雪機械運転教育(北陸支部)

この欄に掲載する写真を募集しております。  
募集規定

1. 写真の内容  
建設事業に関するもの
2. 写真の形式、サイズ  
JPEG 又は GIF 200KB以下

(社) 新潟県融雪技術協会

(社)新潟県融雪技術協会

Home Greetings Dates Manual request Development Organization Training Contact

ご案内 Information

- 2010.04.21 融雪施設維持管理マニュアル改訂発行のご案内
- 2009.11.04 改訂案の正誤表をマニュアル2009に更新
- 2009.08.19 改訂案の正誤表をマニュアル2009に更新
- 2009.04.22 運営委員会において、新会長が選任されました。新会長 小嶋誠雄
- 2009.04.16 マニュアルの正誤表を更新

融雪雪技術で住みよい社会を。

散水消雪施設の維持管理歩掛資料 改訂発行のご案内

「散水消雪施設設計施工・維持管理マニュアル」が平成20年8月に改訂されたのを契機として、『散水消雪施設の維持管理歩掛資料』について歩掛りの実態調査を行い、改訂発行しました。

散水消雪施設設計施工マニュアル 改訂発行のご案内

平成12年3月に発行した標記マニュアルについて「路面消・融雪施設等設計要領」が平成20年8月に改訂されたのを契機として、要領を補完するマニュアルも今回改訂致しました。改訂にあたっては平成8年3月に発行された「消・融雪施設の維持管理マニュアル」から散水消雪施設に  
対応する部分に修正・加筆を加え新たに、『散水消雪施設設計施工維持管理マニュアル』として改訂発行しました。

人に優しい道を演出

道路消融雪イメージ

マニュアル・資料のご案内

散水消雪施設設計施工・維持管理マニュアル及び維持管理歩掛資料のご案内はこちら

**建設技術報告会**

Copyright ©2008-2009. (社)新潟県融雪技術協会 All Rights Reserved.

新潟LIVEカメラ みるさとだより 国土交通省 JCMIA 社団法人日本建設機械化協会北陸支部 新潟県

(社)北陸建設弘済会



国土交通省 新潟港湾空港技術調査事務所



国土交通省 北陸技術事務所



■ 広報・製作物等

■ チラシ A4判

(報告技術募集用)

**平成22年度 建設分野の新技术・新工法の报告会**

**建設技術 报告会**

平成22年 **開催日 9/30(木)**

会場 **富山国際会議場**  
(大手町フォーラム)

～建設分野に関する新技术・新工法などを募集します～

**報告技術 募集**

申し込み期限  
平成22年 **6月18日(金)**



**募集テーマ**  
 ① 省・道・県境の...  
 ② 自然環境保全...  
 ③ 都市の...  
 ④ 防災・防犯...

**主催** 北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術报告会」実行委員会  
 北陸地方建設事業推進協議会「富山県/石川県/福井県/新潟県/長野県/岐阜県」実行委員会  
 (財)日本土木工業協会北陸支部/(財)日本建設業協会北陸支部  
 (財)建設コンサルタント協会北陸支部/(財)日本建設機械協会北陸支部  
 (財)新潟建設業協会/(財)富山建設業協会/(財)石川県建設業協会  
 北陸土木建築士会連合会  
 (財)アズノシステム・コンクリート建設業協会北陸支部  
 北陸プレキャストコンクリート建設業協会  
 (財)北陸建設技術センター/北陸建設業協会  
 (財)日本建設技術協会北陸支部/(財)北陸建設協会

http://www.hrr.mit.go.jp/hokugi/  
 上記ホームページより「報告技術申込書」をダウンロードできます。

北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術报告会」実行委員会  
 (〒920-2311 富山県富山市2310-9005 富山) 電話: 吉川 加藤  
 TEL 025-231-9395 FAX 025-231-1283 E-mail hokugi-info@hrr.mit.go.jp

(聴講募集用)

**平成22年度 建設分野の新技术・新工法の报告会**

**建設技術 报告会**

平成22年 **開催日 9/30(木)**

会場 **富山国際会議場**  
(大手町フォーラム)

**聴講者募集 中**

～建設分野に関する新技术・新工法などを発表します～  
 ○本報告会はCPD/CPDSの登録プログラムになっています。(5単位)

**スケジュール**

- 受付 9:00～ [3階ホワイエ]
- 開会式 9:30～第1会場【メインホール】
- 基調講演 9:40～第1会場【メインホール】  
 「富山県の治水に貢献したオランダ人技術」  
 講師: 前田 英雄氏 (富山県土木史会長)
- 技術報告 10:35～第1会場【メインホール】  
 10:35～第2会場【多目的会議室】
- 閉会式 16:20～第1会場【メインホール】

**聴講無料**



**主催** 北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術报告会」実行委員会  
 北陸地方建設事業推進協議会「富山県/石川県/福井県/新潟県/長野県/岐阜県」実行委員会  
 北陸土木建築士会連合会  
 (財)日本土木工業協会北陸支部/(財)日本建設業協会北陸支部  
 (財)建設コンサルタント協会北陸支部/(財)日本建設機械協会北陸支部  
 (財)新潟建設業協会/(財)富山建設業協会/(財)石川県建設業協会  
 北陸土木建築士会連合会  
 (財)アズノシステム・コンクリート建設業協会北陸支部  
 北陸プレキャストコンクリート建設業協会  
 (財)北陸建設技術センター/北陸建設業協会  
 (財)日本建設技術協会北陸支部/(財)北陸建設協会

北陸地方建設事業推進協議会 平成22年度「建設技術报告会」実行委員会  
 (〒920-2311 富山県富山市2310-9005 富山) 電話: 吉川 加藤  
 TEL 025-231-9395 FAX 025-231-1283 E-mail hokugi-info@hrr.mit.go.jp  
 ホームページアドレス <http://www.hrr.mit.go.jp/hokugi/>

■ 報文集—PDF版(CD-R)

(表紙)

**平成 22 年度**

**建設技術 报告会**

**報文集**

平成 22 年 9 月

北陸地方建設事業推進協議会  
**建設技術报告会 実行委員会**

(目次)

目 次

**第1会場 報告技術**

- 無人・有人対応型車対機の開発 ..... 1
- 進化する橋構 ..... 5
- イージーラメン橋(H欄を用いた門形ラメン橋) ..... 9
- コンクリートスマートオーバーレイ工法について～狭小橋梁に対応した床版増強コンクリート工法の開発～ ..... 13
- コンクリート繊維炭素繊維シートを用いた電気防食工法の開発 ..... 17
- 生分解素材を用いた野芝種子シートの開発 ..... 21
- 延長版システムキャスト工法 ..... 25
- 環境に優しいポリマー改質アスファルト EOO ハイランダーシリーズ ..... 29
- スルースポード工法 高層リニューアルの事例 ..... 33
- 掘削廃棄物の選別処理作業における環境保全対策 ..... 37
- 環境にやさしいPETセグメントの開発と実用化 ..... 41
- メンテナンス対応型消雪/イプロックの改良について ..... 45
- ロードスベイク ～選別交通振動低減型舗装～ ..... 49
- パワースタンプ工法の概要と適用事例 ..... 53
- 高層モニタリングのための加速度計等を搭載した簡易型測定車の開発 ..... 57
- 透水性コンクリート舗装のプレソケット化 ..... 61
- 加熱アスファルト粉末表層処理工法の開発について ..... 65

**第2会場 報告技術**

- 富山大橋の整備について ..... 69
- 振動ローラの加速応答による舗装工事の品質管理技術 ..... 73
- プレキャスト RC 版舗装の応用例 ..... 77
- 静的圧入締固め工法の液状化対策効果と騒音抑制対策 ..... 81
- 潜水作業管理システムの開発 ..... 85
- SKILLS 超長距離冠層ネオグラウト工法の開発 ..... 89
- ワイドウォール工法 ..... 92
- トンネル用コンクリートのひび割れゼロを目指す「前田工法」の開発 ..... 95
- ジョイントスタイル二重壁補強土壁工法 設計・施工マニュアルの策定 ..... 99
- SPO-M 工法(不透気付ドレーンを用いた真空圧密工法)の開発 ..... 103
- 新しい湧水ブロック ーテラネオー ..... 107
- エマックス(可塑性注入材) ..... 111
- 廃木工法(1車輻対応PCスノーシェッド)の施工報告 ..... 115
- 斜管リフト型選流式ケーソン「S-VHS 工法」の開発 ..... 119
- 鉄筋コンクリート集水井 設計・施工マニュアル ..... 123
- 構造物直下の地盤改良工法 ーグラウンドフックスモール工法ー ..... 127
- 「コンカルマト工法」の開発について ..... 131

# 5. アンケート

次回以降の開催の参考とするため、聴講者を対象にアンケート調査を実施した。

## 1) 設問内容

(オモテ面)

**北陸地方建設事業推進協議会**  
**「平成22年度建設技術報告会」アンケート**

建設技術報告会にご参加頂き誠に有り難うございます。  
今後の参考とさせていただきます。アンケート調査にご協力下さい。  
※回答は、記述式の設問以外は該当する記号を○で囲んでください。

**問1.**  
①あなたの職業・職種は、  
A. 国土交通省 B. 県 C. 市町村  
D. 公団 E. A～Dに属さない官公庁(機関名: )  
F. 建設関連の会社(技術職) G. 建設関連の会社(事務職)  
H. 建設関連の協会・団体 I. その他( )

②あなたは主どの分野のお仕事に携わっていますか。  
A. 河川 B. 道路 C. 砂防 D. 港湾空港 E. 養繕  
F. 上下水道 G. 共通 H. その他( )

③どちらから来られましたか。  
A. 富山市内 B. 富山市を除く富山県内( )  
C. 新潟県 D. 石川県 E. その他( )

④この報告会を何で知りましたか。  
A. 協会・団体からの案内 B. ホームページ C. チラシ  
D. 国土交通省・県・市からの案内 E. うちこみ  
F. その他( )

⑤この報告会へのあなたの参加回数は、  
A. 初めて B. 2～5回 C. 6～10回 D. 10回以上

**問2.**  
①建設事業への新技術導入の必要性についてどうお考えですか。  
A. 必要性を感じる B. 多少感じるが急務の問題ではない C. 特に問題意識はない

②上記①で「イ. 必要性を感じる」または「ロ. 多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方はどの分野に必要性を感じますか(複数回答可)。  
A. 常に強い地域づくり・・・「災害対策技術」、「各県道路交通の安全確保」等  
B. 良いものを安く・・・「コスト削減技術」、「省力化技術」、「生産性向上技術」等  
C. 自然災害からの安全確保・・・「土石流などからの防災技術」、「災害対策技術」、「危機管理技術」等  
D. 環境の保全と創造・・・「リサイクル技術」、「省エネルギー技術」、「農林整備技術」等  
E. ゆとりと福祉・・・「生活者の安全健康技術」、「情報化技術」等  
F. その他( )

③新技術導入の障壁となっているものがあるとすれば、それは何ですか。  
A. 経済的なもの B. 積算体系等制度的なもの C. 新技術に関する情報不足(工法選定 etc)  
D. その他( )

**問3.**  
今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術及び関心の高かった技術を3題選んでご記入下さい。  
1. 報告技術名 [ ]  
会社名 [ ]  
2. 報告技術名 [ ]  
会社名 [ ]  
3. 報告技術名 [ ]  
会社名 [ ]

**問4.**  
①今後もこの報告会があった方が良いと思いますか。  
A. 思う B. 思わない C. 内容による  
②上記①で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるかをご記入下さい。

(裏面に続きます)

(ウラ面)

③開催時期はいつが良いと思いますか。  
A. 今の時期が良い B. その他( )月頃

④開催地はどこが良いと思いますか。  
A. 今回の開催地で良い B. 新潟県、富山県、石川県で順番に開催 C. その他( )

⑤報告技術1題あたりの発表時間についてお聞かせ下さい。  
A. 長い B. 適当 C. 短い

⑥上記⑤で「A. 長い」または「C. 短い」に○をされた方は適当と思われる時間をご記入下さい。  
概ね 分/1題

**問5.**  
①今回、基調講演をお聞きになって感じたこと等、意見をお聞かせ下さい。  
[ ]

②今後もこのような基調講演があった方が良いと思いますか。  
A. 思う B. 思わない C. 内容による

③上記①で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるかをご記入下さい。  
[ ]

**問6.**  
この報告会の報告形式や会場設置についてご意見がありましたらご記入下さい。  
[ ]

**問7.**  
パネル展示、NETIS登録技術パンフレット配布についてお伺いします。  
①今後も新技術を紹介するパネル展示があった方が良いと思いますか。  
A. 思う B. 思わない C. 内容による  
②今後もNETISに登録されている技術パンフレットの配布を行った方が良いと思いますか。  
A. 思う B. 思わない C. 内容による

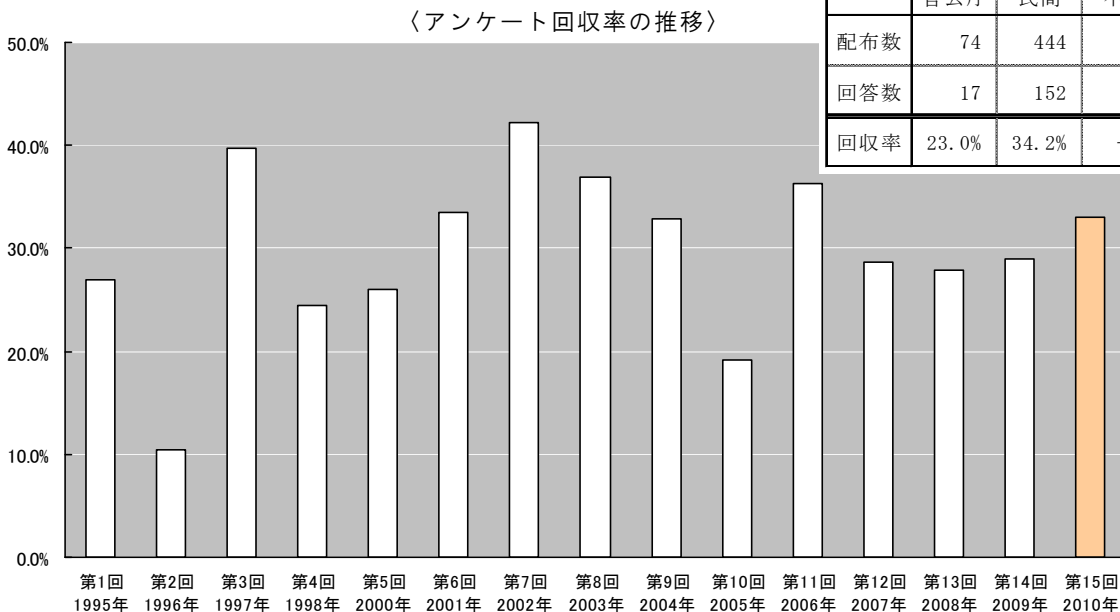
**問8.**  
本報告会をCPD/CPDSの認証プログラムに登録しましたが、今後もCPD/CPDSに登録した方が良いと思いますか。  
A. 思う B. 思わない C. 分からない  
・自由意見  
[ ]

**問9.**  
その他、この報告会について感じたことがありましたらご記入下さい。  
[ ]

ご協力ありがとうございました。この用紙はロビーに設置していますアンケート回収箱に投函願います。  
「平成22年度建設技術報告会」実行委員会

## 2) 配布・回収

アンケートは受付時に聴講者に配布し、第1会場及び第2会場前ロビー(ホワイエ)に設置した回収箱により回収を行った。なお、アンケート回収率は以下のとおりである。





### 3) アンケート結果概要

#### 【アンケート配布・回収結果】まとめ

- ①アンケート配布数は518枚、回収数は171枚、回収率は33%。
- ②アンケート回収率の推移は前ページのグラフのとおり。

#### 問1. 職業及び分野、参加者の住所等

- ①参加者の職業・職種は、約9割が民間。
- ②参加者の主な分野では、道路46%・河川38%・港湾空港5%の順。
- ③参加者は、富山県内が44%で、新潟県内28%、石川県内19%の順。
- ④報告会を何で知ったかは、協会・団体の案内が約7割、HPは約1割。

#### 問2. 新技術の導入及び分野、新技術導入の障害

- ①建設事業への新技術導入の必要性について、8割以上が感じている。
- ②どの分野に必要性を感じているかについては、「良いものを安く」が32%、「環境の保全と創造」が31%、「自然災害からの安全確保」が19%、「雪に強い地域づくり」が12%、「ゆとりと福祉」が4%。
- ③新技術導入の障害となっているのは、「経費的なもの」が34%、「積算体系等制度的なもの」が29%、「新技術に関する情報不足」が27%。  
H21年度と同じ

#### 問3. 今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術

第1位・・・17票(7.0%)

『環境にやさしいPETセグメントの開発と実用化』（清水建設㈱ 土木技術本部 シールド統括部）

第2位・・・17票(7.0%)

『メンテナンス対応型消雪パイプブロックの改良について』（㈱興和 水工部）

第3位・・・15票(6.1%)

『延長床版システムプレキャスト工法』（㈱ガイアートT・K 本社 技術部）

#### 問4. 今後の報告会と開催時期、開催場所、発表時間

- ①今後もこの報告会があった方が良いかについて、「思う」が約9割。
- ②開催時期について、「今の時期が良い」が約8割、「その他の時期」が1割。
- ③開催地について、「新潟県、富山県、石川県の順」が約6割で「今回の開催地」が4割。
- ④報告技術1題あたりの発表時間（15分）について、「適当」が約8割。
- ⑤発表時間の「その他」の意見として、1課題、20分～30分が合計19名。

#### 問5. 基調講演について

- ①「基調講演」をお聞きになって感じたこと等、意見について、特徴としては下記のとおり。
  - ・遠い異国の地、日本で30年の永きに渡り、治山治水に尽力した技術者として「やりとげる」という姿勢に感銘を受けた。
  - ・明治期に諸外国の先進技術を取り入れようとした国策が近代化に役立った事実を再認識した。我々も新技術導入へ積極的に取り組むべきと思う。
  - ・富山県の河川事業についての歴史を感じた。
  - ・外国人の先人の努力があったことを知れて良かった。
  - ・もう少し具体的（技術的）な内容がよい。
  - ・技術的な話が少なかった
- ②今後もこのような「基調講演」があった方が良いかについて、約8割が賛同。
- ③その他の意見として、「質疑応答の時間がほしい」

## 問6. 報告会の報告形式や会場設営などについての意見について、特徴としては下記のとおり。

- ①報告形式について
  - ・ 2箇所にて会場が分かれていて、興味がある方へ動けてよかった。
  - ・ 技術報告数が多すぎる。
  - ・ 2会場にて同時進行しているため、選択が難しい。
  - ・ 2会場の移動に時間が必要であるため、発表の間に時間を空けた方がよい（2～3分）。
  - ・ プログラム毎に会場の行き来が自由になればよい。
  - ・ まとめて質問するよりも、発表の都度、質問時間をとった方がよい。
- ②会場設営について
  - ・ 会場の選択はとても良い。
  - ・ 駐車料金を必要としない会場が良い。
  - ・ 会場（ホール）の床の歩行音が気になった。
- ③その他について
  - ・ 発表技術の全てのパネル展示があった方がよい。また、連絡先等分かればなお良い。
  - ・ 開発メーカーとの交流場所（時間）があってもよいのでは。
  - ・ パネル展示及びNETISパンフレット配布の場所で、担当者からもう少し詳しい説明を聞きたい。
  - ・ 事前にテキストがHPからダウンロードできればよい。その方が当日の講演やQ&Aが実のあるものとなる。
  - ・ 資料がなく、パワーポイントだけの説明では質問ができない。

## 問7. パネル展示、NETIS登録技術パンフレット配布

- ①新技術を紹介するパネル展示については、「あった方がよい」が84%。
- ②技術パンフレットについては、「配布を行った方がよい」が82%。

## 問8. CPD/CPDS認証プログラム登録について

- ①CPD/CPDSの認証プログラムについて、「登録したほうが良いと思う」が82%。
  - ・ 技術系職員の参加が多くなると思うので登録した方がよい。
  - ・ 継続教育は今後の技術の継承の観点から非常に重要である。その証として、このような単位制度はあってよいと思う。
  - ・ 午前、午後に分けて登録することもあってよい。

## 問9. 報告会について感じたことについて、特徴としては以下のとおり。

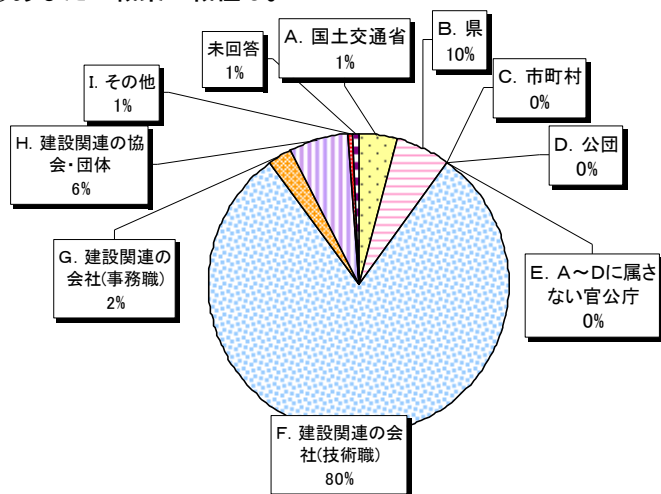
- ・ 技術・技能の伝承や技術力低下、技術者不足、高齢化などが問題となっている中、日々進歩している技術への認識と交流が重要である。今後もこういう報告会の場をふやしてもらい、業界や技術者が常に切磋琢磨していけるよう望みます。
- ・ 新技術に触れる良い機会だったと思う。各会社の方向性が分かりおもしろいと感じた。
- ・ 新技術の情報が得られ非常に役に立った。実施するには設計変更が伴うので、発注者も柔軟に対応してもらいたい。
- ・ 他社の取り組みが分かった。これらの発表を聞くことで、今取り組んでいる仕事の材料になればいいと思う。
- ・ 携帯電話をマナーモードにするという基本を守れない聴講者が沢山いるので注意喚起をうながしてほしい。
- ・ 昼食（弁当）が注文できるとよい。

## 4) 設問別集計結果

各設問の集計結果は以下のとおりである。

### 問 1

①あなたの職業・職種は。

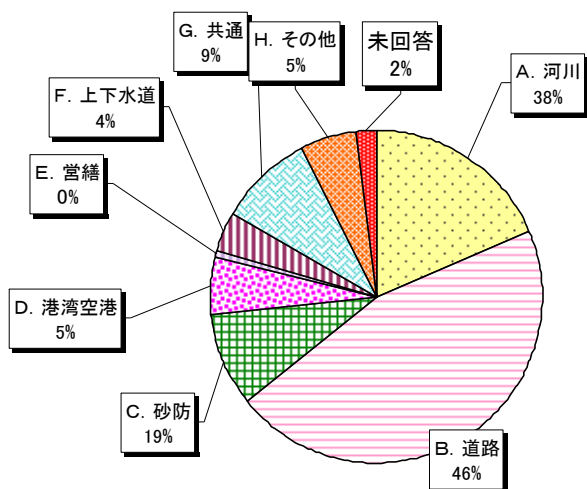


A. 国土交通省	7
B. 県	10
C. 市町村	0
D. 公団	0
E. A～Dに属さない官公庁	0
F. 建設関連の会社(技術職)	137
G. 建設関連の会社(事務職)	4
H. 建設関連の協会・団体	11
I. その他	1
未回答	1
計	171

その他

・土木建設コンサルタント(1)

②あなたは主にどの分野のお仕事に携わっていますか。



A. 河川	38
B. 道路	92
C. 砂防	19
D. 港湾空港	11
E. 営繕	1
F. 上下水道	8
G. 共通	19
H. その他	11
未回答	4
計	203

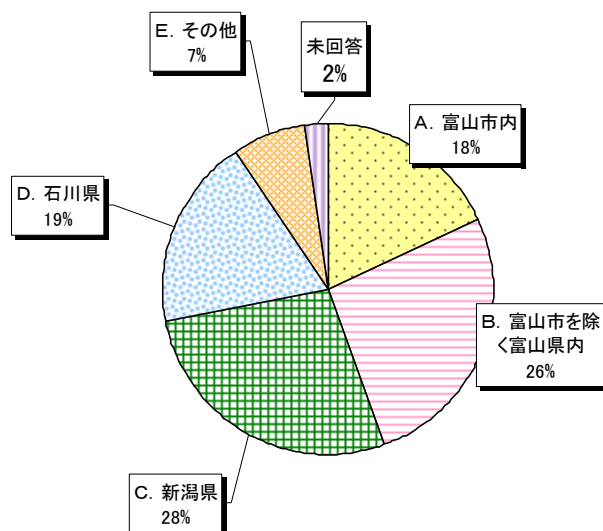
共通

・土木工事全般(1)  
 ・建設環境(1)  
 ・橋梁(1)  
 ・未回答(16)

その他

・発電水力(1) ・検査(1)  
 ・都市計画(1) ・鉄道(1)  
 ・環境安全(1) ・道路設備管理(1)  
 ・経営(1) ・未回答(4)

③どちらから来られましたか。



A. 富山市内	31
B. 富山市を除く富山県内	45
C. 新潟県	47
D. 石川県	32
E. その他	12
未回答	4
計	171

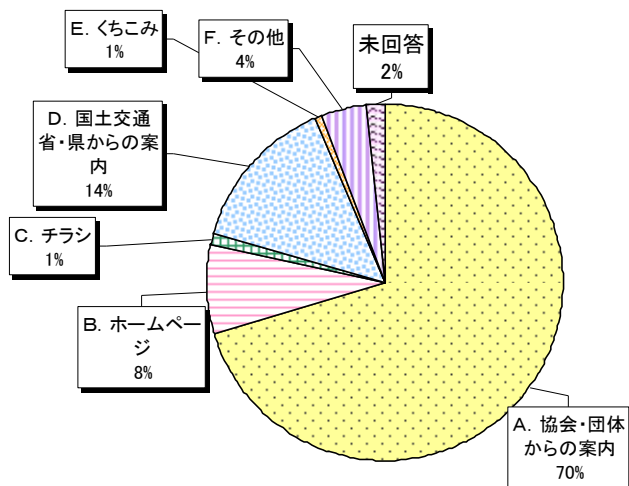
富山市を除く富山県内

- ・高岡市 (7)
- ・砺波市 (3)
- ・黒部市 (2)
- ・氷見市 (1)
- ・朝日町 (1)
- ・魚津市 (4)
- ・射水市 (2)
- ・南砺市 (1)
- ・立山市 (1)
- ・未回答 (2 3)

その他

- ・東京都 (5)
- ・福島県 (1)
- ・未回答 (2)
- ・福井県 (3)
- ・長野県 (1)

④この報告会を何で知りましたか。

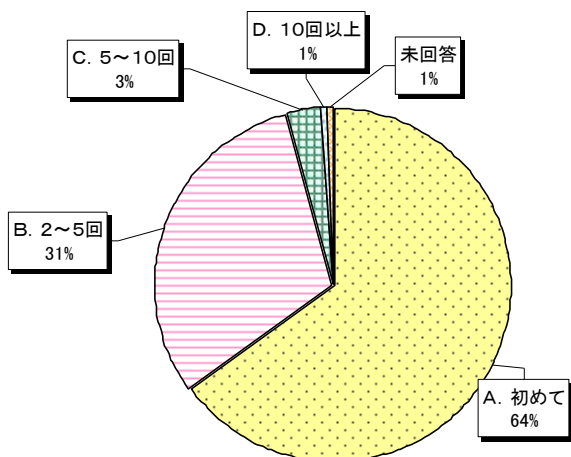


A. 協会・団体からの案内	123
B. ホームページ	14
C. チラシ	2
D. 国土交通省・県からの案内	25
E. くちこみ	1
F. その他	7
未回答	3
計	175

その他

- ・会社 (1 4)
- ・発表者 (1)
- ・建設コンサルタント (1)
- ・未回答 (1)

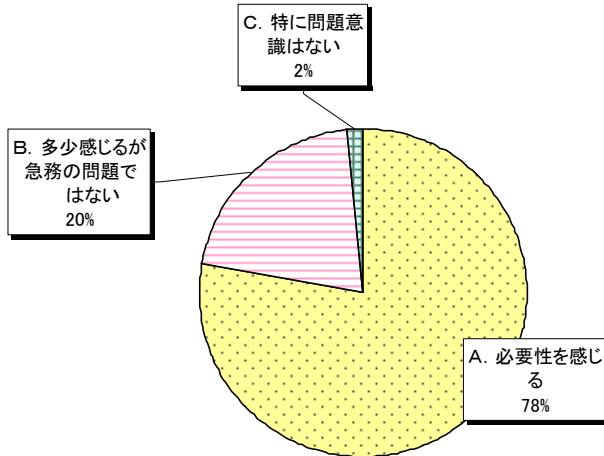
⑤この報告会へのあなたの参加回数は



A. 初めて	111
B. 2～5回	53
C. 5～10回	5
D. 10回以上	1
未回答	1
計	171

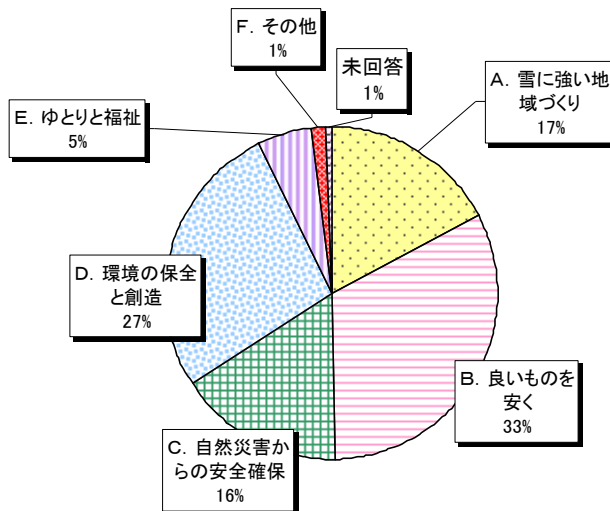
## 問2

①建設事業への新技術導入の必要性についてどう思われますか。



A. 必要性を感じる	133
B. 多少感じるが急務の問題ではない	35
C. 特に問題意識はない	3
計	171

②どの分野に必要性を感じますか？（複数回答有り）

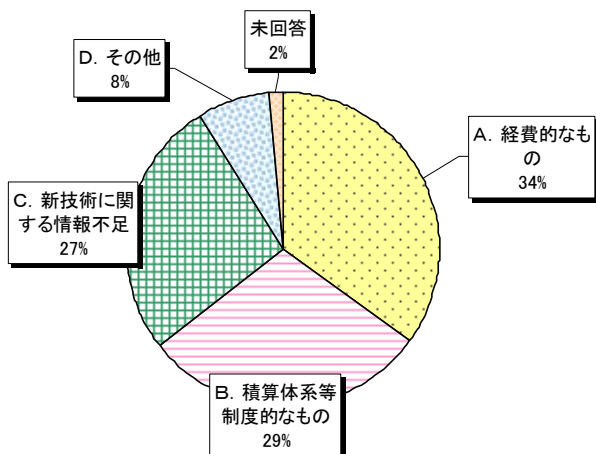


A. 雪に強い地域づくり	57
B. 良いものを安く	107
C. 自然災害からの安全確保	53
D. 環境の保全と創造	88
E. ゆとりと福祉	18
F. その他	4
未回答	2
計	329

その他

- ・メンテナンス技術（1）
- ・外観、景観（1）
- ・高くとも良いものを（1）

③新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何ですか。（複数回答可能）



A. 経費的なもの	70
B. 積算体系等制度的なもの	59
C. 新技術に関する情報不足	53
D. その他	15
未回答	3
計	200

「D. その他」の内容

- ・特許工法への無理解（発注者）
- ・実績がないと導入自体難しい（2）
- ・発注者の理解、協力
- ・主たる分野で対応のない工種があり、加点にならないため
- ・関係者の意識
- ・品質確保と検証方法
- ・組織形態及び判断のできる体制がない
- ・発注機関の柔軟な対応ができない（決定権限は課長クラス）ことと処理能力不足
- ・発注者は実績にこだわっているので、実績と比べて品質が劣らないことが証明出来るものが必要
- ・施工中に実際に使うにあたり、重箱の隅をつつくがごとく報告を求められる  
（メーカーの登録情報の結果と違うのは施工会社の責任なのか）
- ・開発会社の自己満足的な技術が多く、ニーズを理解していない。
- ・特定の工法を指定した契約が難しい。性能発注の普及などが必要と思う。

問3

今回の報告会を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術及び関心の高かった技術を3題選んでご記入下さい。

第1位・・・17票(7.0%)

『環境にやさしいPETセグメントの開発と実用化』（清水建設㈱ 土木技術本部 シールド統括部）

第2位・・・17票(7.0%)

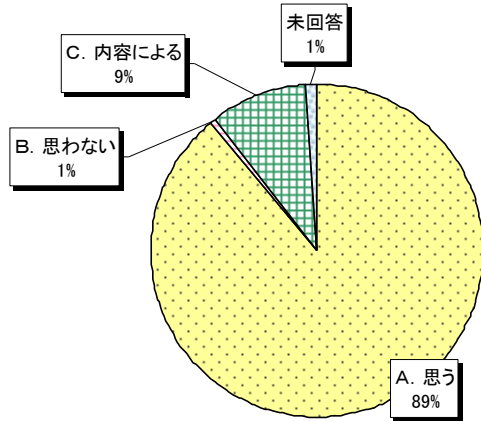
『メンテナンス対応型消雪パイプブロックの改良について』（㈱興和 水工部）

第3位・・・15票(6.1%)

『延長床版システムプレキャスト工法』（㈱ガイアートT・K 本社 技術部）

#### 問 4

①今後もこの報告会があった方が良いと思いますか。



A. 思う	152
B. 思わない	1
C. 内容による	16
未回答	2
計	171

②上記①で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○を付けた方はどのような内容を望まれますか？

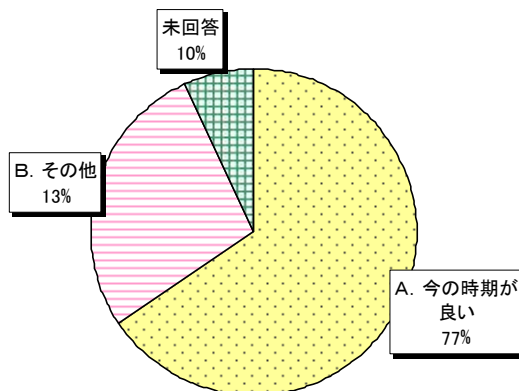
##### ■「B. 思わない」に○を付けた方

- ・新技術の情報はNETISなどデータベースで入手できる。多くの手間暇をかけて発表会を行うのは今の時代、企業を取り巻く環境に合わないのでは

##### ■「C. 内容による」に○を付けた方

- ・非常によい工法が発表されたが、コスト面への話が少なかったため、どのくらい従来工法に比べると経済的なのか分からなかった
- ・CPDS取得のため、類似に多く参加している。
- ・施設の維持・補修のための技術、あるいは体系的な報告。
- ・技術開発は時間的制約をしないことが重要。常に進めることで毎年開催する必要はない。一長一短で開発は無理なことから、3年インターバルがベター
- ・北陸に特化した技術（雪、寒冷）に絞った方が興味をもたれると思う。
- ・発表された技術をどのように採用していくのか、行政がそのためにどのような対策をするのかも含めた報告会にした方がいいと思う。
- ・実際に自分の工事で採用できそうか、そうでないかが問題であるため。
- ・機械設備、電気設備的なものも含めてほしい。

③開催時期はいつが良いと思いますか。



A. 今の時期が良い	112
B. その他	47
未回答	12
計	171

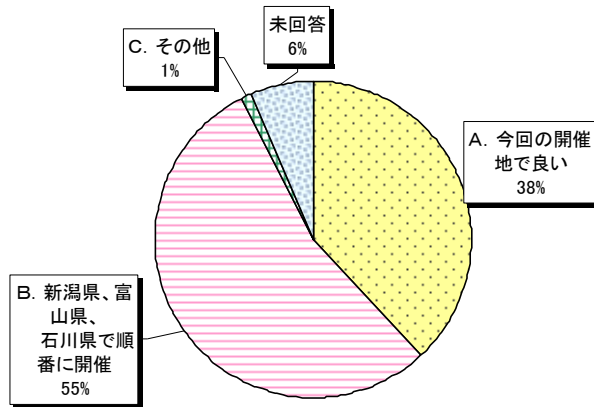
その他

- ・ 4月 (5) ・ 5月 (13)
- ・ 6月 (13) ・ 7月 (1)
- ・ 8月 (1) ・ 10月 (2)
- ・ 2月 (3)
- ・ 4～5月 (5) ・ 5～6月 (4)
- ・ 5～7月 (1) ・ 10～11月 (1)
- ・ 冬頃 (1)

意見

- ・ 中間決算期を避けてほしい

④開催地についてどのようにお考えですか。

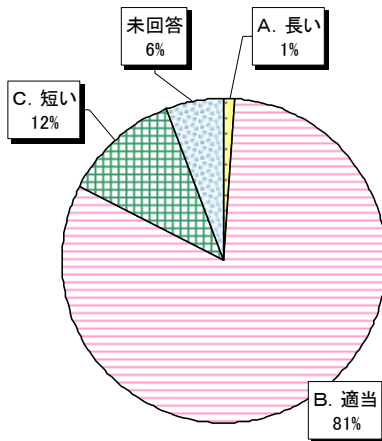


A. 今回の開催地で良い	65
B. 新潟県、富山県、石川県で順番に開催	93
C. その他	2
未回答	11
計	171

その他

- ・石川県（1）
- ・場所に制約はない（1）

⑤報告技術1題あたりの発表時間についてお聞かせ下さい。



A. 長い	2
B. 適当	139
C. 短い	20
未回答	10
計	171

⑥上記⑤で「A. 長い」または「C. 短い」に○をされた方は適当と思われる時間をご記入下さい。

■ 「A. 長い」に○をされた方

- ・10分（1）

■ 「C. 短い」に○をされた方

- ・20分（9）
- ・25分（2）
- ・30分（8）

※意見

- ・15分では短すぎる
- ・休憩時間が必要
- ・テンポが良い



問5① 今回、基調講演をお聞きになって感じたこと等、意見をお聞かせ下さい。

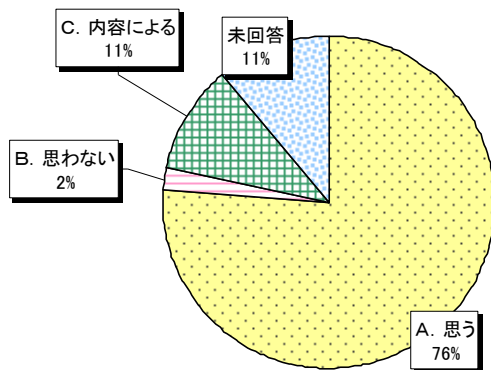
### ◆ 講演の内容について

- ・ 外国人の先人の努力があったことを知れて良かった
- ・ 現場体験者の報告があれば良い
- ・ 外人に直接技術提供してもらっていた事実が分かった(2)
- ・ 面白かった
- ・ 勉強になった(2)
- ・ その県の郷土話を聞いて良かった
- ・ 良かった(2)
- ・ もう少し富山における技術的に突っ込んだ内容もあって良かったと思った
- ・ 自分の全く知らなかった事であり、大変興味を感じる(3)
- ・ 富山県の河川事業についての歴史を感じた(3)
- ・ 遠い異国の地、日本で30年の永きに渡り、治山治水に尽力した技術者として「やりとげる」という姿勢に感銘を受けた
- ・ 日本の土木に関係した外国人に30年も働いてくれた人がいたのに驚いた
- ・ 常願寺川の治水に関する関係者の話を聞くことができ、大変参考になった(3)
- ・ 富山の治水河川の歴史を語り継いでほしい
- ・ 土木技術の歴史を聞くことは当事者として非常に興味深い。次回も同様の内容が準備されればと思う
- ・ 土木技術の成り立ちについて探究するためのきっかけとなった
- ・ 基調講演は良かった。特に富山では黒部の電力事業や立山砂防において建設(土木)との関連が深い。技術者はこれまでの土木に関する歴史認識を強く持つべきであり、関係団体は広く内外にPRすべきである。もう少し時間がとれ、掘り下げた話も聞きたかった
- ・ 当業種に携わり約25年になるが、改めて土木技術の歴史と社会貢献の偉業を痛感した
- ・ 古い文献は参考になった。土木史に関心を持つようになった
- ・ 明治期に諸外国の先進技術を取り入れようとした国策が近代化に役立った事実を再認識した。我々も新技術導入へ積極的に取り組むべきと思う
- ・ 分かりやすく、よく理解できた(2)
- ・ オランダ技士の日本での技術指導を説明されたが、常願寺川の各種指導までの時間配分が悪く、肝心な部分が聞けなかった
- ・ 土木の歴史の話を聞いて良かった(2)
- ・ 技術的な話が少なかった(2) 写真が少なかった
- ・ 本県の砂防工事の祖デ・レーケの略歴等を知ることができた
- ・ 先人も治山・治水について同じように考えていたことを知った。基本は変わらないのだと思う
- ・ もう少し具体的(技術的)な内容がよい。(2) 賃金などどうでもよい
- ・ 道路にあまりかわりがない話なので初めて聞く話が多く、それなりに勉強になった
- ・ 最先端技術の必要性を感じた
- ・ 全く意味が分からなかった(1) よく分からなかった(1)
- ・ 技術史(歴史)を勉強したくなった。建築史はあるが土木史はない
- ・ 富山の土木技術の経緯の一部が分かった
- ・ 偉業を行った人の紹介となった
- ・ プレゼン資料にも少し当時の状況、現在の状況の写真等があれば面白かったと思う(2)
- ・ 公演の話が前半がやや冗漫で間延びしているように感じた
- ・ 面白くない
- ・ 治水対応は河川だけでなく流域の植栽が必要
- ・ 他分野からの土木事業に関する考え方がうかがえる点で興味深いものがある
- ・ 有意義だった
- ・ コンパクトにまとめてあるから良い

## ◆ その他意見など

- ・マイクの音が小さい
- ・音響がやや悪くて聞き取りにくかった（3）
- ・話としては興味深い内容だが、基調講演というべき内容か？
- ・内容は良かったが聞きづらかった
- ・内容がそぐわないと思う
- ・発表時間が短い（2）
- ・質疑応答の時間がほしい
- ・年配の方だと時間調整が難しいのでは？
- ・写真は仕方ないが、周辺を歩く人がうるさい。周辺が騒がしく不愉快
- ・技術以外の知識を得ることが出来るため続けて頂きたい

②今後もこのような記念講演があった方が良いと思いますか。



A. 思う	130
B. 思わない	4
C. 内容による	18
未回答	19
計	171

③上記②で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるかをご記入下さい。

### ■ 「B. 思わない」に○をされた方

- ・道路技術者には興味なし。全技術者対応したテーマはない。
- ・団体による書籍などでコラムとなるような内容であり、建設技術の報告にはあっていない。

### ■ 「C. 内容による」に○をされた方

- ・歴史だけでなく、技術的な内容も入れてほしい
- ・特に土木建設等に関係のないものでもよいと思われる
- ・本を読んで知り得る内容はいらぬ
- ・現代に合った内容
- ・土木工事の先達者の創意工夫
- ・もう少し工学・理学的な観点での基調講演をお願いしたい
- ・建設業の現状とかの方が良いと思う
- ・講演内容が分かりづらかった。音響が原因なのか、声が聞きづらかった。
- ・異業種の方からみた建設分野への提言といったニュアンスのもの

## 問6. この報告会の報告形式や会場設営などについてご意見がありましたらご記入下さい。

### ◆ 報告形式などについて

- ・ 技術報告数が多すぎる
- ・ 2会場で同時進行しているのが、選択が難しい
- ・ 2会場の移動に時間が必要であるため、発表の間に時間を空けた方がよい(2～3分)
- ・ まとめて質問するよりも、発表の都度、質問時間をとった方がよい
- ・ 各報告時間が15分と余裕がなく、うまくまとまらないケースもみられる。また、聴講する側も件数が多く、負担も感じる。よって1件あたりの報告時間を20～25分程度に延ばし、件数は減らした方がよい
- ・ 今後も社会資本整備への財政難は続くと思われるが、新技術や新工法を維持管理面に活用している内容を紹介してほしい
- ・ 手元に資料がほしい
- ・ プログラム毎に会場の行き来が自由になればよい
- ・ 各会場の各グループをなるべく分野別(トンネル、橋梁、砂防、海岸など)としてほしい(3)
- ・ 1発表に付き1質問の方が良いと思う
- ・ 第1と第2会場で5分程度プログラムをずらせばよいと思う。冒頭部分が移動で聞けない
- ・ 第1会場は感想関係で偏っていたと思う

### ◆ 会場設営などについて

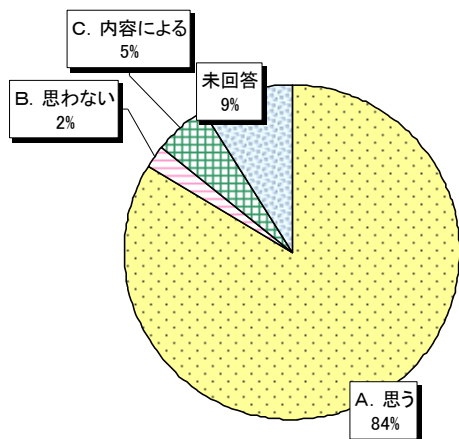
- ・ 駐車料金を必要としない会場がいい
- ・ 駐車場のある会場が望ましい(2)
- ・ メモが取れるよう、机のある会場の方がよい
- ・ 会場(ホール)の床の歩行音が気になった。
- ・ 会場の選択はとてもよい(2)
- ・ 第1会場と第2会場の座席の違い。第2会場は拷問みたい
- ・ 2箇所の会場で行われるため、聴講したい内容に合わせて移動しやすい会場の配置にしてほしい
- ・ パネルブースに仕切りを設けたほうがよい。そうするとテレビやビデオを放映できる(名古屋建設テクノフェア参照)
- ・ 会場も立派で特に問題ないと思われる

### ◆ その他

- ・ 初めて出席したが、報告会については良いと思う
- ・ 居眠りをしている者のイビキが気になった(周りの者が起こしてやるべき)
- ・ 有料でもよいので報告集がほしい
- ・ 携帯電話をマナーモードにするという基本を守れない馬鹿が沢山いるので注意喚起をうながしてほしい
- ・ CPDSのためか、従来より来場者、聴講者が多く、これからもこの形式で継続してほしい
- ・ 論文集の配布方法

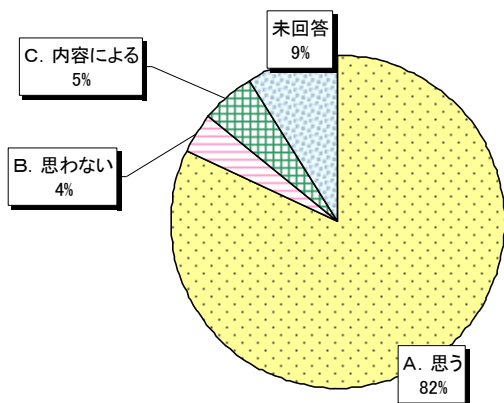
問 7.

①今後も新技術を紹介するパネル展示があった方が良いと思いますか。



A. 思う	143
B. 思わない	4
C. 内容による	9
未回答	15
計	171

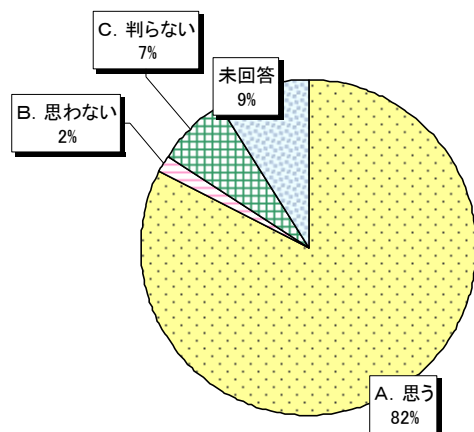
②今後もNETISに登録されている技術パンフレットの配布を行った方が良いと思いますか。



A. 思う	140
B. 思わない	7
C. 内容による	9
未回答	15
計	171

## 問 8.

### ①CPD/CPDS認証プログラム登録の良否



A. 思う	141
B. 思わない	3
C. 判らない	12
未回答	15
計	171

#### ■自由意見

- ・ 発表者のみでよい
- ・ 国交省が絡むものは全てCPD/CPDSにすべき
- ・ 顧客のニーズの多様性によりマッチした施工ができるので、継続教育（国指導の）は十分意義がある。できれば数多くするのではなく、個々の四半期ごとにプログラムを替えて実施する方がよいのでは。
- ・ 他の報告会の方法と何も変わらない。内容もただの報告レベルである。
- ・ 午前、午後に分けて登録することもあってよい。
- ・ CPD/CPDS登録は聴講した報告のみの時間に与えるのがよい。会場にいるだけにはギモン。
- ・ 時代進歩が分かる。
- ・ 技術系職員の参加が多くなると思うので登録した方がよい。
- ・ 継続教育は今後の技術の継承の観点から非常に重要である。その証として、このような単位制度はあってよいと思う。
- ・ 居眠りをしている者、全てを聴講していない者など、不適切な者は認証しないようにすべき。
- ・ 土木技術者が参加する機会を与える意味で認証プログラムの登録は大変いいと思う。

## 問9. その他、この報告会について感じたことがありましたらご記入下さい。

- ・ 屋食(弁当)が注文できるとよい(2)
- ・ 今後も年2回くらい実施してほしい
- ・ スライドだけでなくパンフレットがあり分かりやすかった
- ・ 16:00に終るようにしてほしい
- ・ 発表技術の全てのパネル展示があった方がよい。また、連絡先等分かればなお良い
- ・ プレゼンの勉強になった
- ・ 10/6のように同じ地整内で別の発表会はまずい
- ・ 開発種類分け発表するのも良いと思う。
- ・ 開発メーカーとの交流場所(時間)があってもよいのでは。
- ・ 発注機関(特に実務を担当している若手)の参加を強く望む。現状のままでは新技術のアピール(発進)がなされているだけで、採用(受諾)がなされていない
- ・ 報告会自体の報告内容資料が少なすぎる。せめて報告の原稿をコピーして紙なりDVDにして配布してほしい。
- ・ サイト内容の充実化をお願いします
- ・ 参考になった(2)
- ・ 動画で説明されると分かりやすくてよい。粗いグラフなどは見にくい
- ・ パネル展示及びNETISパンフレット配布の場所で、担当者からもう少し詳しい説明を聞きたい
- ・ 新技術に触れる良い機会だったと思う。各会社の方向性が分かりおもしろいと感じた
- ・ パネル内容が少なく、パンフレットの欲しいものが無くなっていた。ハイウエイフェアのようにもう少し規模を大きくしてもらいたい
- ・ もっと実用的なものがあれば興味がわくのではないか
- ・ 評価(評判などを含む)の高い新技術については、過去の発表例であっても、繰り返し取り上げてもらえるとよい
- ・ 範囲が広く、分からない部分も多かった
- ・ 事前にテキストがHPからダウンロードできればよい。その方が当日の講演やQ&Aが実のあるものとなる
- ・ 資料がなく、パワーポイントだけの説明では質問ができない
- ・ なかなか質問が出ない。(会場が広いのか)
- ・ 年ごとにテーマを決めて同じような技術を一堂に会したらどうか
- ・ 会場での発表はしやすかった(発表者より)
- ・ 2箇所会場が分かれていて、興味がある方へ動けてよかった(2)
- ・ 発表者の声が聞きづらい時があった(声が小さいため)ので、ハンディマイクの使用も検討してほしい
- ・ もう少し分科化を行って(4分科程)、興味のわくテーマを集めたほうが良いのでは
- ・ 講演がよかった
- ・ 以前のようにレジュメを配布しないのなら、せめて登録者だけでもいいからHPからダウンロードできるようにしてほしい。何もなければ何も使えない
- ・ 中間決算期を外すともっと多くの人が参加できるのでは？
- ・ 電気、機械系もあったほうがよい
- ・ カメラマンが多すぎる。講義の邪魔になっている。靴音もチョコマカ目障りである。各団体が分からないがまとめたらよい。
- ・ 特殊な工法が多いので一般的な工種での新技術があれば参考になる
- ・ 新技術の情報が得られ非常に役に立った。実施するには設計変更が伴うので、発注者も柔軟に対応してもらいたい
- ・ 技術報告された方々に対し、事前準備を含め大変苦労したと思います、お疲れ様でした。
- ・ 地元(魚津市)中小企業の新技術があれば聞いてみたい
- ・ 新技術の開発と報告に今後も御尽力お願い致します
- ・ 発表内容についてはNetで公開していただければ講習会に出席できない場合、後日確認できる
- ・ 発表の最後に「お問い合わせは〇〇〇へ」といった営業行為とも思われる発言は好ましくないのではないかと
- ・ 他社の取り組みが分かった。これらの発表を聞くことで、今取り組んでいる仕事の材料になればいいと思う
- ・ 技術・技能の伝承や技術力低下、技術者不足、高齢化などが問題となっている中、日々進歩している技術への認識と交流が重要である。今後もこういう報告会の場をふやしてもらい、業界や技術者が常に切磋琢磨していけるよう望みます
- ・ 会場の写真係の靴の音がうるさい。